

# 国内外の産業動物衛生情報

2018年1月～12月

年月日	国内	海外
2018.12.29	<p>●愛知県 野生イノシシ豚コレラ検出(3-4 例目) 犬山市大字塔野地(調査対象区内)12/28 市民や猟友会がそれぞれ、わなにかかっているのを発見 ①: オス・成体・体長 155cm・体重 120kg ②: オス・成体・体長 110cm・体重 50kg 愛知県の対応 (1) 陽性が確認されたイノシシ発見場所はこれまでの調査対象区内であるため、新たな区域は設定しない。(2) 捕獲場所から半径 10km 以内の農場 2 戸に立入検査(12/30 予定)による異常の有無の確認及び毎日の死亡頭数確認 (3)犬山市、小牧市、春日井市で実施している捕獲イノシシ検査及び県内全域で実施している死亡イノシシ検査は継続。</p> <p>●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 85 頭(捕獲 55 頭) 八百津町上飯田 地内【箱わな】(H30.12. 28 発見)調査捕獲, 雄, 子, 約 65 cm, 約 20 kg</p>	
2018.12.28	<p>●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 84 頭(捕獲 54 頭) 各務原市鵜沼大安寺町地内【山地】(H30.12. 27 発見), 死亡, 雌, 成体, 約 115 cm, 約 50 kg</p>	
2018.12.27	<p>●岐阜県野生イノシシ 2 頭感染 豚コレラ 計 83 頭(捕獲 54 頭) ①坂祝町勝山地内【くくり罠】(H30.12. 26 発見) 調査捕獲, 雌, 子, 約 90cm, 約 20kg ②可児市西帷子地内【くくり罠】(H30.12. 26 発見)調査捕獲, 雄, 子, 約 75 cm, 約 20kg</p>	<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県四湖郷の家きん(七面鳥)飼養農場</p>
2018.12.26	<p>●愛知県 野生イノシシ豚コレラ検出(2例目) 犬山市栗栖大平の山中、死亡野生イノシシ、雄, 成体, 約 100cm, 約 60kg ●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 81 頭(捕獲 52 頭) 山県市高富地内【くくり罠】(H30.12. 25 発見) 調査捕獲, 雄, 成体, 約 120cm, 約 60kg</p>	
2018.12.25	<p>●岐阜県 豚コレラ(飼養家畜 6 例目)発生 所在地:岐阜県岐阜市 飼養状況:繁殖豚 871 頭、肥育豚 6,676 頭 経過 12/23(日)3～4 例目の搬出制限区域内における出荷予定豚の検査 豚コレラを疑う 12/24(月)) 岐阜県立入検査、精密検査実施 豚コレラ疑似患畜確認 ●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 80 頭(捕獲 51 頭) 川辺町比久見地内【くくり罠】(H30.12. 24 発見) 調査捕獲, 雌, 成体, 約 110cm, 約 45kg</p>	<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県東勢郷の家きん(肉用アヒル)飼養農場</p> <p>●中国 アフリカ豚コレラ 71 報目(113 か所目)発生 広東省恵州市博羅県 農場:飼養頭数 90 頭中 11 頭発症、11 頭死亡 ※発生地域は 4 直轄市 18 省 1 区 113 か所(102 農場、4 施設、6 村)に拡大(野生イノシシ 1 か所)</p>
2018.12.24		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 70 報目(112 か所目)発生</p>

		福建省南平市延平区 農場:飼養頭数 5776 頭中 35 頭発症、11 頭死亡
2018.12.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 79 頭(捕獲 50 頭) 岐阜市椿洞地内【くくり罠】(H30.12. 21 発見) 調査捕獲, 雄, 子, 約 80cm, 約 20kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 アフリカ豚コレラ 69 報目(111 か所目)発生 広東省広州市黄埔区 農場:飼養頭数 6027 頭中 30 頭発症、9 頭死亡</li> </ul>
2018.12.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>●愛知県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 初確認 犬山市字野中:くくり罠:メス・成体・体長 100cm・体重 60kg 経緯 12/19: 犬山市猟友会がイノシシを捕獲(13 時 30 分)(岐阜県境から約 5 キロの山中) 12/20: 西部家保が中央家保搬入(14 時) 中央家保で検査開始、採材後のイノシシを焼却 12/21: 中央家畜保健衛生所の遺伝子検査の結果、陽性判定 農研機構動物衛生研究部門 豚コレラの陽性確定(15 時 15 分)ウイルスは岐阜で確認されているものと同じ型</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 アフリカ豚コレラ発生 66 報目:12/19 中国 アフリカ豚コレラ 66 報目(108 か所目)発生 広東省珠海市香洲区 と畜場:と畜場の豚 50 頭中 11 頭発症、11 頭死亡 広東省で初発 67 報目:12/20 中国 アフリカ豚コレラ 67 報目(109 か所目)発生 福建省三明市尤溪县 1 農場:飼養頭数 11,950 頭中 27 頭発症、27 頭死亡 ※発生地域は 4 直轄市 18 省 1 区 109 か所(98 農場、4 施設、6 村)に拡大(野生イノシシ 1 か所) 68 報目(110 か所目)発生 貴州省黔南プイ族ミャオ族自治州竜里県 農場:飼養頭数 156 頭中 42 頭発症、42 頭死亡 ※発生地域は 4 直轄市 18 省 1 区 110 か所(99 農場、4 施設、6 村)に拡大(野生イノシシ 1 か所)</li> </ul>
2018.12.20		<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 アフリカ豚コレラ 65 報目(107 か所目)発生 重慶市璧山区 1 農場:飼養頭数 23 頭中 8 頭発症、3 頭死亡 ※発生地域は 4 直轄市 17 省 1 区 107 か所(97 農場、3 施設、6 村)に拡大(野生イノシシ 1 か所)</li> </ul>
2018.12.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 78 頭(捕獲 49 頭) 可児市西帷子地内【くくり罠】(H30.12.18 発見) 調査捕獲, 雌 成体 約 100cm 約 30kg</li> <li>●宮崎県 豚流行性下痢発生 日南市 養豚農場(一貫経営) 豚流行性下痢(PED)発生</li> <li>●群馬県 豚流行性下痢発生 1 例目(西部) 1,970 頭 12 月 13 日通報 哺乳豚 300 頭 元気消失、うち 100 頭嘔吐下痢(死亡なし) 1 月 12 日沈静化、死亡豚(淘汰を含む) 287 頭</li> </ul>	
2018.12.18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鹿児島県出水市 低病原性鳥インフルエンザウイルス(H7N9 型)検出 ツルのねぐらの水(12/10 採取)から検出 ツルなどの野鳥や養鶏への感染は確認されていない。</li> <li>●千葉県 豚流行性下痢(PED)発生確認 225 頭発症、150 頭死亡 今シーズン(H30.9~)に入り 1 例目発生</li> <li>●岐阜県野生イノシシ 3 頭感染 豚コレラ 計 77 頭(捕獲 48 頭) ① 坂祝町取組地内【くくり罠】(H30.12.14 発見) 調査捕獲, 雌 子 約 85cm 約 20kg ② 美濃加茂市山之上地内【くくり罠】(H30.12.15 発見) 調査捕獲, 雄 成体 約 120cm 約 60kg ③ 各務原市須衛町地内【箱わな】(H30.12.17 発見) 捕獲 雌 成体 約 120cm 約 60kg</li> <li>●疫学調査チーム見解変更 豚コレラ感染は野生イノシシが先 岐阜県の豚コレラ感染経路は海外から持ち込まれ、輸入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 嘉義県中埔郷の家きん(鶏)</li> </ul>

	<p>検疫を受けずに持ち込まれた旅行者の手荷物や国際小包などで、ウイルスが岐阜市椿洞地区などの野生イノシシに感染し、その後市内の養豚場に入ったと見解。これまでは最初に1例目となった養豚場が発端だった可能性が高いとし、その後、野生イノシシに広がったとの見解。</p> <p>だが、</p> <p>①検出されたウイルス株は中国やモンゴルで流行した型に近い</p> <p>②1例目の養豚場の経営者に渡航歴はない</p> <p>③養豚場で発生する前の7月(11頭)、8月(7頭)に椿洞地区で相次いで死亡イノシシ発見</p> <p>④飼養管理者に限られ、汚染資材などの持ち込みも確認されない</p> <p>などのことから8月上旬にはウイルスが椿洞地区に侵入していたと見解を変更</p> <p>椿洞地区で7～8月に発見された死亡イノシシについての豚コレラ検査は未実施だが、感染していた可能性を否定できないと指摘。</p> <p>海外から違法に持ち込まれた食品が家庭ごみとして捨てられたり、行楽地で廃棄されたりし、それを食べた野生イノシシが最初に感染した可能性を指摘し、先にイノシシに感染が広がり、何らかの経路で養豚場の豚に感染したと推定。</p> <p>同地区にはBBQ場として多くの人が集まる岐阜市畜産センター公園があり、11月には2例目の豚の感染が確認された。</p> <p>3例目の県畜産研究所では防疫対策に問題はなかったが、カラスが豚舎内に侵入していたことが判明。野生動物が媒介した可能性を指摘。</p> <p>4例目の関市内のイノシシ飼育場では飼養管理者が野生イノシシ捕獲調査に参加するなどしていた。</p> <p>さらに、イノシシに感染したウイルスが変異し、これまでの遺伝子検査では結果が分かりにくくなっていることが判明。</p>	
<p>2018.12.17</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岐阜県野生イノシシ1頭感染 豚コレラ 計74頭(捕獲45頭)</li> <li>関市倉知地内【くくり畠】(H30.11.28 発見) 調査捕獲</li> <li>※ 雄成体 約115cm 約50kg</li> <li>●岐阜県 豚コレラ(飼養家畜5例目)発生</li> <li>所在地:岐阜県可児市</li> <li>施設概要:岐阜県農業大学校(岐阜県畜産研究所(3例目)搬出制限区域内)</li> <li>飼養状況:肥育豚7頭、繁殖豚3頭</li> <li>経過</li> <li>12/7(金) 検査 全ての豚に異常なし</li> <li>12/14(金) 3例目の発生に係る岐阜県農業大学校の定期検査を行ったところ、豚コレラを疑う。下痢や発熱はなし。</li> <li>12/15(土) 岐阜県が再度当該施設の立入検査を実施し、岐阜県及び農研機構動物衛生研究部門で精密検査を行ったところ、1頭について豚コレラの患畜確認</li> <li>当該施設は、少なくとも9/1(土)以降、豚の移動を行っていない。</li> <li>●岐阜県 4例目農場 餌置き場が屋外に所在、管理基準不徹底か</li> <li>飼育していたイノシシから豚コレラが確認された関市の猟犬訓練場を点検した結果、一部の餌置き場が屋外にさら</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンゴ民主共和国 エボラ出血熱発生(WHO及びコンゴ民主共和国保健省)</li> <li>北東部の北キブ州 エボラ出血熱発生</li> <li>12/16までに315名死亡例539例患者(確定491例、疑い48例)報告</li> <li>8/8 高リスク群に対してワクチン接種開始、12/17までに、48,048名接種済</li> <li>●中国 アフリカ豚コレラ64報目(105～106か所目)発生</li> <li>・105か所目:四川省綿陽市塩亭県1農場:飼養頭数210頭中35頭発症、26頭死亡</li> <li>・106か所目:黒龍江省鶏西市鶏冠区1農場:飼養頭数84頭中24頭発症、24頭死亡</li> <li>※発生地域は4直轄市17省1区106か所(96農場、3施設、6村)拡大(野生イノシシ1か所)</li> <li>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2亜型)発生</li> <li>桃園市平鎮区の家きん(ガチョウ)飼養農場</li> </ul>

	<p>された状態で、飼養衛生管理基準が徹底されていなかったと発表。訓練場は金網や電気柵が設置され、野生イノシシと接触しないよう対策が取られていた。一方、近所の人からもらった野菜を置く トレーは柵の外にあり野生動物の排せつ物などが混入しやすい状態だった。感染ルートは確認されていないが、小動物を介しウイルスが侵入した可能性もあるとして、県内のイノシシ飼育場に防鳥ネットを配布するなどして感染防止の徹底を図る。また管理者は野生イノシシの調査捕獲に従事しており、10月に捕獲したイノシシ計4頭は陽性だった。しかし、県 が11月までに訓練場で実施した複数回の立ち入り検査で飼育イノシシに異常は見られず、捕獲時の対応には問題はなかったとした。</p>	
<p>2018.12.13</p>	<p>●北海道 豚流行性下痢(PED)発生確認 苫小牧市肥育経営(飼養頭数 18,050 頭) 肥育豚(約 800 頭)発症 今シーズン(H30.9～)に入り 1 例目発生 12/8 肥育豚が下痢、家畜保健衛生所の立入・検査 12/13 検査結果陽性</p>	
<p>2018.12.12</p>	<p>●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 73 頭(捕獲 44 頭) 各務原市各務北山地内【道路脇】(H30.12.11 発見)死亡 雌成体 約 100cm 約 45kg</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 63 報目(103～104 か所目)発生 103 か所目・四川省巴中市巴州区 1 農場:飼養頭数 117 頭中 51 頭発症、19 頭死亡 104 か所目・青海省西寧市大通回族トウ族自治県 1 農場:飼養頭数 69 頭中 14 頭発症、14 頭死亡 ※発生地域は 4 直轄市 17 省 1 区 104 か所(94 農場、3 施設、6 村)に拡大(野生イノシシ 1 か所)</p>
<p>2018.12.11</p>	<p>●岐阜県野生イノシシ 2 頭感染 豚コレラ 計 72 頭(捕獲 44 頭) ①関市小迫間地内【山地】(H30.12.10 発見)死亡 雌成体 約 110cm 約 50kg ②八百津町上飯田地内【くくり罟】(H30.12.10) 調査捕獲 雌成体 約 105cm 約 40kg</p>	
<p>2018.12.10</p>	<p>●岐阜県 豚コレラ(飼養家畜 4 例目)発生 ・所在地:岐阜県関市(3 例目の発生施設から約 12km 離れた施設) ・飼養状況:イノシシ(22 頭) ・経緯: 12/9 :岐阜県は、飼養イノシシが異状を呈しているとの届出を受けて、当該施設に対し立入検査を実施。 12/10 :当該イノシシについて岐阜県中央家畜保健衛生所において病性鑑定を実施し、豚コレラの疑似患畜であることを確認。 ●岐阜県野生イノシシ 4 頭感染 豚コレラ 計 70 頭(捕獲 43 頭) ・発見場所:岐阜県岐阜市、坂祝町、可児市及び関市(調査対象区域①～③) ・発見日:12月 6 日～7 日 ・発生数:イノシシ 4 頭 ※ 調査対象区域(11 月 6 日から実施) ①岐阜市椿洞地区の陽性個体の発見箇所の重心を中心とした 10km 区域 ②岐阜市大洞地区の陽性個体の発生箇所の重心を中心とした 10km 区域 ③可児市西帷子地区の陽性個体の発見箇所を中心</p>	

	<p>とした 10km 区域</p> <p>④八百津町和知地内の陽性個体の発見箇所を中心とした 10km 区域</p>	
2018.12.9		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 62 報目(101～102 か所目)発生</p> <p>・陝西省榆林市神木市 1 農場:飼養頭数 33 頭中 19 頭発症、19 頭死亡</p> <p>・貴州省貴陽市白雲区 1 農場:飼養頭数 26 頭中 5 頭発症、5 頭死亡</p> <p>※発生地域は 4 直轄市 16 省 1 区 102 か所(92 農場、3 施設、6 村)に拡大(野生イノシシ 1 か所)</p> <p>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ 野鳥からの分離事例(2018 年 10 月以降)</p> <p>雲林県元長郷 家きん(肉用ガチョウ)飼養農場</p>
2018.12.7	<p>●宮崎県 豚流行性下痢発生</p> <p>日南市 養豚農場(一貫経営) 豚流行性下痢(PED)発生</p>	
2018.12.6		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 61 報目(100 か所目)発生</p> <p>山西省臨汾市堯都区 1 農場:飼養頭数 91 頭中 45 頭発症、35 頭死亡</p> <p>※発生地域は 4 直轄市 16 省 1 区 100 か所(90 農場、3 施設、6 村)に拡大(野生イノシシ 1 か所)</p> <p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生</p> <p>彰化県鹿港鎮の家きん(地鶏)飼養農場</p>
2018.12.5	<p>●岐阜県野生イノシシ 3 頭感染 豚コレラ 計 66 頭(捕獲 39 頭)</p> <p>①可児市西帷子地内【くくり罠】(H30.12.4 発見、調査捕獲), 雄, 成体, 約 100cm, 約 40kg</p> <p>②各務原市東町地内【箱わな】(H30.12.4 発見, 捕獲), 雄, 成体, 約 105cm, 約 50kg</p> <p>③各務原市東町地内【箱わな】(H30.12.4 発見, 捕獲), 雄, 成体, 約 110cm, 約 50kg</p> <p>●岐阜県 豚コレラ(豚 3 例目)発生</p> <p>・発生場所:岐阜県美濃加茂市の岐阜県畜産研究所</p> <p>・飼養状況:繁殖豚 67 頭、子豚 424 頭</p> <p>・経緯:</p> <p>(1)12 月 3 日、飼養豚が食欲不振等の症状を示しているとの通報を受け、岐阜県中央家畜保健衛生所が立入検査を実施。</p> <p>(2)12 月 4 日、岐阜県中央家畜保健衛生所の検査で豚コレラを疑う。</p> <p>(3)12 月 5 日、国立研究開発法人 農研機構 動物衛生研究部門の精密検査により、豚コレラの患畜と確認</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 60 報目 発生</p> <p>97 か所目:四川省瀘州市合江県 1 農場:飼養頭数 165 頭中 68 頭発症、68 頭死亡</p> <p>98 か所目:陝西省西安市長安区 1 農場:飼養頭数 245 頭中 85 頭発症、64 頭死亡</p> <p>99 か所目:北京市順義区 1 農場:飼養頭数 2461 頭中 53 頭発症、26 頭死亡</p> <p>※発生地域は 4 直轄市 16 省 1 区 99 か所(89 農場、3 施設、6 村)に拡大(野生イノシシ 1 か所)</p>
2018.12.3	<p>●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 63 頭(捕獲 36 頭)</p> <p>八百津町地内【くくり罠】(H 30.12.3 発見、調査捕獲), 雄, 成体, 約 135cm, 約 100kg</p>	
2018.12.2	<p>●岐阜県野生イノシシ 2 頭感染 豚コレラ 計 62 頭(捕獲 35 頭)</p> <p>①各務原市各務原市地内【箱わな】(H30.11.30 発見), 捕獲, 雄, 成体, 約 115cm, 約 50kg</p> <p>②各務原市松が丘地内【山際】(H30.11.30 発見), 死亡, 雄, 子, 約 75cm, 約 20kg</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ</p> <p>59 報目(94 か所目)発生</p> <p>黒龍江省農墾総局北安管理局 1 農場(イノシシ農場):飼養頭数 375 頭中 77 頭死亡</p> <p>59 報目(95 か所目)発生</p> <p>北京市通州区 1 農場:飼養頭数 9,835 頭、85 頭発症、17 頭死亡</p> <p>59 報目(96 か所目)発生</p>




		陝西省西安市邑区 1 農場 : 飼養頭数 245 頭中 205 頭発症、79 頭死亡 ※陝西省で初めて発生 ※発生地域は 4 直轄市 16 省 1 自治区 96 か所 (86 農場、3 施設、6 村) に拡大 (野生イノシシ 1 か所)
2018.11.30		●中国 アフリカ豚コレラ 58 報目(93 か所目)発生 江西省九江市柴桑区 1 農場 : 飼養頭数 159 頭、16 頭発症、4 頭死亡
2018.11.29		●中国 アフリカ豚コレラ 57 報目(92 か所目)発生 天津市寧河区 1 農場 : 飼養頭数 361 頭中 67 頭死亡
2018.11.27	●農林水産省 食用生鮮家きん卵輸出解禁 韓国 日本国から韓国への食用生鮮家きん卵の輸出が認められた。	
2018.11.26	●岐阜県野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 60 頭(捕獲 34 頭) 八百津町和知地内【畑】(H30.11.26 発見)、死亡、雄、成体、約 115cm、約 40kg 調査対象区域外(感染第一発見養豚場から東 24km。)で発見 動衛研検査結果 今回、本野生イノシシ回収地点を中心とした半径 10km 以内の区域を調査対象区域に追加	●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県東勢郷 家きん(肉用アヒル)飼養農場
2018.11.25	●往診を専門にするペット動物病院が急増 往診専門、10 年で 2.6 倍に ペットのいる家庭に向いて診療する「往診」を専門とする獣医師が、東京都内で増加。通院による犬や猫のストレスを減らし、診療時間が長め、コミュニケーションがとりやすい。動物病院に犬や猫を連れていくのが難しいクライアントたちの受け皿となっている。	●中国 アフリカ豚コレラ 56 報目(91 か所目)発生 湖北省 1 農場: 飼養頭数 63 頭中、9 頭発症、5 頭死亡 ※発生地域は 4 直轄市 15 省 1 区 91 か所(81 農場、3 施設、6 村)(野生イノシシ 1 か所)
2018.11.24	●岐阜県野生イノシシ 4 頭感染 豚コレラ 計 59 頭(捕獲 34 頭) 坂祝町勝山地内【くくり畷】(H30.11.24 発見)、捕獲、雌、子、約 75cm、約 20kg。同町初。感染第一発見養豚場から東 12km。	
2018.11.23		●中国 アフリカ豚コレラ 54 報目(88~89 か所目)発生 北京市(初発): 2 農場で飼養頭数 1754 頭中、86 頭死亡 55 報目(90 か所目)発生 内モンゴル自治区 1 農場 : 飼養頭数 88 頭中、69 頭発症、53 頭死亡
2018.11.22	●岩手県 豚流行性下痢(PED)発生 中央域 養豚場 1 戸(6,870 頭飼養) 哺乳子豚 48 頭が下痢を呈し、死亡 11/19 農場から家保に報告 11/20 家保立入確認、採材 11/21 11/11+(PCR) 11/22 確定診断 陽性 ●岐阜県野生イノシシ 4 頭感染 豚コレラ 計 58 頭(捕獲 33 頭) 各務原市(調査対象区域②) 発見日: 11 月 21、22 日 発生数: イノシシ 4 頭(岐阜県の遺伝子検査: 陽性) ※ ②岐阜市大洞地区の陽性個体の発生箇所の重心を中心とした 10km 区域	

<p>2018.11.21</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 54 頭(捕獲 29 頭)</li> <li>①岐阜市城田寺地内【水路(11/20 発見)】、死亡、雌雄不明、子、体長体重不明</li> <li>②関市小迫間地内【地内(くくり畷、11/20 発見)】、調査捕獲、雌、子、約 80 cm、約 20 kg</li> <li>●愛知県名古屋市中で採取された野鳥の糞便(1検体) から低病原性鳥インフルエンザウイルス(H7N9 亜型)検出</li> <li>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 52 頭(捕獲 28 頭)</li> <li>①各務原市鵜沼山崎町地内【箱わな(11/17 発見)】、捕獲、雄、子、約 60 cm、約 20 kg</li> <li>②関市迫間地内【山地(11/19 発見)】、死亡、雄、成体、約 150 cm、約 130 kg</li> <li>●管理不十分 豚コレラ 岐阜県庁で高鳥修一農林水産副大臣、古田肇知事、柴橋正直市長会談。 高鳥修一農林水産副大臣：行政機関が管轄する施設で飼養衛生管理に不十分な点があったと指摘されたことは誠に遺憾。感染拡大防止策の徹底要求。 岐阜市畜産センター公園では豚舎を電気柵で囲うなどしていたが、農水省の調査で、重機や長靴を適切に管理せず使用し、国が定めた飼養衛生管理基準を守っていなかった疑い。 会談後、柴橋市長：公園の担当者の認識が甘く、市も連携が取れていなかった。 ※9/16 畜産公園の豚も感染(2例目)。公園内では感染イノシシ2頭の死骸も見つかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県東勢郷 家さん(肉用アヒル)飼養農場 雲林県元長郷 家さん(肉用ガチョウ)飼養農場</li> </ul>
<p>2018.11.20</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東北大(放射線病理学)研究チーム 福島第1原発から 40km 圏内にある南相馬市と浪江町で事故後に捕殺されたニホンザルを調べ成獣 18 頭で骨髄中の成分を調べ他の地域と比べた。その結果、血小板になる細胞など血液のもとになる複数の成分が減っていた。さらに、一部の成分は、筋肉中の放射性セシウムの量から推定される1日あたりの内部被ばく線量が高い個体ほど、減り方が大きくなっていった。</li> <li>●日本獣医生命科学大(野生動物)研究チーム 福島市が個体数調整のため 2008～2016 年に捕殺したニホンザルのうち、妊娠していたメスの胎児を調べた。原発事故前後の計 62 頭のデータを比較したところ、事故後の胎児は事故前に比べ、頭の大きさが小さく体全体の成長にも遅れがみられた。母ザルの栄養状態には変化がなく、チームは事故による母ザルの放射線被ばくが影響した可能性がある結論。</li> <li>●環境省が実施する野生動植物への放射線影響の調査対象にニホンザルは含まれておらず、日本霊長類学会など5学会は、ニホンザルを対象に含めることなどを求める要望書を同省に提出。</li> <li>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 50 頭(捕獲 27 頭)</li> <li>岐阜市城田寺地内【地内】(H30.11.20、発見)、死亡、性不明、子、体重不明、体重不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 アフリカ豚コレラ 53 報目(87 か所目)発生 湖南省懷化市鶴城区 農場:飼養頭数 73 頭中 61 頭発症、55 頭死亡 ※発生地域は 3 直轄市 15 省 1 区 87 か所(77 農場、3 施設、6 村)に拡大。(野生イノシシ 1 か所)</li> </ul>
<p>2018.11.19</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 アフリカ豚コレラ 52 報目(85～86 か所目)発生 黒龍江省ハルビン市道外区の 2 農場:2 農場 飼養頭数 900 頭中 269 頭発症、269 頭死亡 ※発生地域は 3 直轄市 15 省 1 区 86 か所(76 農場、3 施設、6 村)(野生イノシシ 1 か所)</li> </ul>

2018.11.18		<p>●コンゴ民主共和国 エボラ出血熱発生(WHO 及びコンゴ民主共和国保健省) 北東部の北キブ州 エボラ出血熱発生 11/18 までに 216 名死亡、373 例患者(確定 326 例、疑い 47 例) 8/8 高リスク群に対してのワクチン接種開始、 11/19 までに、32,108 名ワクチン接種済</p>
2018.11.17		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 50 報目(81 か所目)発生 江西省 上饒市 陽県 農場:飼養頭数 150 頭中 10 頭発症、10 頭死亡 50 報目(81 か所目)発生 四川省成都市新津県 農場:飼養頭数 110 頭中 27 頭発症、13 頭死亡 51 報目(84 か所目)発生 上海市金山区 農場 :飼養頭数 314 頭中 50 頭発症、11 頭死亡 ※上海市 初確認 ※発生地域は 3 直轄市 15 省 1 区 84 か所(74 農場、3 施設、6 村)に拡大。(野生イノシシ 1 か所)</p>
2018.11.16	<p>●豚コレラ 2 例目 岐阜 感染経路は不明 飼養状況:肥育豚(2 頭)、子豚(21 頭) 15 日午後、岐阜市の獣医師から県家畜保健衛生所に「豚の元気がなくなり、発熱している」と連絡。 岐阜市の発生養豚場から約 8km 離れた「岐阜市畜産センター公園」で飼育されていた豚 2 頭の遺伝子検査をした結果、豚コレラの陽性。2 頭の豚コレラのウイルスの遺伝子は、岐阜市の発生養豚場のものと同じグループ。感染経路は不明。「防疫態勢はしっかりしていた」と説明、周辺で相次いで感染が確認されている野生イノシシが接触した可能性は低いとの見解。9 月に市内の養豚場での感染が判明してから、園内の豚舎を電気柵やベニヤ板で囲い、周辺は一般客が入れないようにした。また、イノシシでの感染拡大を踏まえ 10 月 9 日からは放牧も中止。電気柵や板に傷などの異常はなく、イノシシによってウイルスが持ち込まれた可能性は「考えにくい」とした。また、市は 9 月 26 日に今回の 2 頭を含む園内の全頭の遺伝子検査を県が実施、いずれも陰性。感染は同日以降とみられる。 9 月中旬～下旬に園内発見豚コレラ感染野生イノシシ 2 頭の死骸は、豚舎から数百 m の場所。豚舎周辺は電気柵やベニヤ板でイノシシの侵入を防いでいたが、園内には出入りできる状況で、豚舎近くにもイノシシが掘った穴など複数の形跡が見つかった。県は、園内に侵入したイノシシから何らかの形で感染した可能性もある。</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 48 報目(79 か所目)発生 吉林省白山市渾江区 死亡野生イノシシ 1 頭 ※中国当局は周辺農場のサーベイランス、消毒、放飼禁止、当該地域の野生イノシシ調査実施中 49 報目(80 か所目)発生 雲南省昭通市威信県 農場:飼養頭数 1 頭中 1 頭発症、1 頭死亡</p>
2018.11.15	<p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 49 頭(捕獲 27 頭) 岐阜市椿洞【道路脇】(H30.11.13 発見)、死亡、雌、子、約 75 cm、約 15 kg ●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 48 頭(捕獲 27 頭) 関市倉知地内【くくり畠】(H30.11.10 発見)、調査捕獲、雌、成体、約 105 cm、約 50 kg</p>	<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生】 雲林県台西郷 家きん(肉用アヒル)飼養農場 ●中国 アフリカ豚コレラ 46 報目(77 か所目)発生確認 湖北省黄冈市水県 農場 :飼養頭数 636 頭中 24 頭発症、うち 13 頭死亡 47 報目(78 か所目)発生確認 四川省宜賓市高県 農場:飼養頭数 40 頭中 16 頭発症、うち 10 頭死亡 ※四川省で初めて発生確認</p>



		※発生地域は2直轄市15省1区78か所(70農場、2施設、6村)に拡大
2018.11.12		●中国 アフリカ豚コレラ 45 報目(75, 76 か所目)発生確認 湖北省黄冈市武穴市 隣接する2農場:飼養頭数 147 頭中 7 頭発症、うち 6 頭死亡 ※発生地域は2直轄市14省1区76か所(68農場、2施設、6村)に拡大
2018.11.10	●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 47 頭(捕獲 26 頭) 岐阜市山中【畏】(H30.11.10 発見)	●日中韓 3 カ国農相家畜防疫共同声明 日本、中国、韓国 3 カ国の農業大臣会合が開かれ、家畜伝染病の拡大防止に向けた協力の強化などを盛り込んだ共同声明採択。アフリカ豚コレラをはじめ感染力の強い動物疾病が東アジアで発生していることを踏まえ、3 カ国で防疫強化。共同声明では中国で拡大しているアフリカ豚コレラなど、国境を越えて広がる可能性のある家畜伝染病が各国で発生している現状を問題視。「効果的な国境管理に向けた 3 カ国間の協力を強化する必要がある」との認識を共有。畜産関連で、担当者レベルの定期的な協議をする。  ●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 江蘇省 家きん農場
2018.11.9	●中国からの旅行客携行品 アフリカ豚コレラウイルス遺伝子陽性 11/9 大連から成田空港到着した旅客が任意放棄した携行品豚肉製品(ソーセージ 2.5kg) 11/21 ASFV 遺伝子検出 11/22 PCR 増幅産物の遺伝子配列の解析の結果、PCR 産物の配列が ASFV に特異的なものであることを確認 ASF ウイルス分離検査 陰性 3例目 到着日: 2018年11月9日 (大連発、成田空港着) 品目: ソーセージ (2.5kg) (検疫探知犬) 遺伝子陽性確認日: 2018年11月22日	
2018.11.8		●中国 アフリカ豚コレラ 44 報目(74 か所目)発生 安徽省池州市青陽県 農場:飼養頭数 8339 頭中 96 頭発症、うち 47 頭死亡 ※発生地域は2直轄市14省1区74か所(66農場、2施設、6村)に拡大。 42(70~72 か所目)発生 72: 吉林省延辺朝鮮族自治州龍井市 農場:飼養頭数 930 頭中 144 頭発症、144 頭死亡 71: 江西省上饒市万年県 農場:飼養頭数 154 頭中 49 頭発症、49 頭死亡 70: 湖南省婁底市漣源市 農場:飼養頭数 9 頭中 4 頭発症、うち 1 頭死亡 43 報目(73 か所目)発生 福建省田市城廂区 農場:飼養頭数 4,521 頭中 85 頭発症、85 頭死亡 ※発生地域は2直轄市14省1区73か所(65農場、2施設、6村)に拡大。
2018.11.7	●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 46 頭(捕獲 25 頭)	●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県北港鎮 家きん(七面鳥)飼養農場

	<p>関市倉知地内【くくり罟】(H30.11.7 発見)、調査捕獲、雌、成体、約 105 cm、約 50 kg</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 41 報目(69 所目)発生 湖北省黄冈市羅田県 農場:飼養頭数 821 頭中 22 頭発症、うち 4 頭死亡</p>
<p>2018.11.6</p>	<p>●苦渋の決断“別れ”詩 根室市酪農家 北海道地震停電引き金 バケツの音が消えた 牛のなき声が消えた ミルカーの音が消えた バルククーラーの音が消えた 「生産の音」全てが消えた 静寂.....寂.....涙...涙....</p>	<p>●コンゴ民主共和国 エボラ出血熱発生(WHO 及びコンゴ民主共和国保健省) 北東部の北キブ州 エボラ出血熱発生。 11/6 までに 191 名の死亡例、308 例患者(確定 273 例、疑い 35 例) 8/8 に高リスク群に対してのワクチン接種開始、11/6 までに、26,724 名接種</p>
<p>2018.11.5</p>	<p>●農林水産省 米国での鳥フル 輸入停止は郡単位 国内の防疫指針見直しへ 食料・農業・農村政策審議会 第 34 回家畜衛生部会で、米国での高病原性鳥インフルエンザ発生時に適用していた州単位のゾーニングを郡単位に縮小することで了承。農林水産大臣への答申を経て、パブリックコメントの募集や日米間での家畜衛生条件の改正協議を進める。日米両国は 2012 年 6 月以降、米国で HPAI が発生した場合、州単位で輸入を停止しているが、米国が郡を適用単位とするゾーニングを認めてほしいと要請し、2017 年 10 月に農林水産大臣が食料・農業・農村政策審議会に検討を諮問。家畜衛生部会が家さん疾病小委員会に意見を求め、2017 年 12 月と 2018 年 7 月の 2 回にわたり検討。同小委員会で、 ①米国では HPAI の発生予防とまん延防止のための対応計画と早期摘発体制、早期封じ込め体制が整備されている ②2014～2015 年シーズンの大規模な発生を受けて発生予防と対応計画を強化し、16 年と 17 年のシーズンの発生は限定的となった ことから、「米国で HPAI が発生した場合でも、発生農場の周辺に設定される半径 10km の制限区域内に封じ込める可能性が高い。 さらに迅速かつ適切に防疫措置が講じられ、発生が制限区域を越えてまん延しないことを確認できた場合に、適切なリスク管理措置を講じることによって、HPAI の発生に伴う輸入停止措置の範囲を郡単位に縮小することは適当と考えて了承した」と検討結果報告。 郡単位に変更後は、最初に州単位で輸入を停止し、発生が制限区域内で封じ込められている場合は郡単位に縮小する。ただし、発生が郡境を越えて水平感染、または同州内で多発した場合は州単位の輸入停止に戻す。また、家畜衛生部会では HPAI と LPAI に関する防疫指針の変更案について諮問。今後は家さん疾病小委員会で議論し、その結果を家畜衛生部会に報告。同部会で変更の方針について答申を得た後、速やかに防疫指針を改正する。 変更案は次の通り。 ①2018 年 1 月に香川県で発生した事例を踏まえ、異常家畜の届出があった場合の検査羽数と採材方法、簡易キット陽性時の検体の送付について明記する。香川県の事例ではウイルスの排出量が少なく、簡易検査と PCR 検査の結果が一致しなかったことから、確実に簡易検査の段階で AI と判定できるように、検査羽数を現行の 5 羽から「死亡家さん 11 羽、生きた家さん 2 羽」に変更する。現在は変更後の羽数で運用している。 ②発生農場で直接飼養管理を行っていた者が 7 日以内に他の農場で直接飼養管理を行っていた場合、当</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 40 報目(68 か所目)発生 湖南省湘西トゥチャ族ミャオ自治州保靖県 農場:飼養頭数 119 頭中 11 頭発症、4 頭死亡 ※発生地域は 2 直轄市 11 省 1 区 68 か所(60 農場、2 施設、6 村)に拡大。</p>

該農場で飼養する家きんを疑似患畜としていたことについて、一定の水準以上の衛生管理を行なっている場合には、疑似患畜から除外することができる旨を明記する。現在は無条件で疑似患畜として殺処分の対象になるが、農場で一定の水準以上の衛生管理を行なっていることが確認できる場合、疑似患畜から除外する。今シーズンから運用する予定。

③制限区域内の液卵加工場にかかわる制限について、当該加工場の衛生状況を家畜防疫員が確認し、一定の水準以上の衛生管理を行なっている場合には、制限の対象外とすることができる旨を明記する。液卵加工場はGPセンターと同列に扱われており、AI発生時は操業を一時停止するが、細菌が繁殖するなどの理由で操業再開に時間がかかるため、家畜防疫員が発生前に一定の水準以上の衛生管理を行なっていることを確認できる場合、制限の対象外とする。

④他の防疫指針に併せ、家きんの所有者や防疫措置従事者の精神的ストレスにきめ細かな対応を行なうよう努めることなどを明記する。

「一定の水準以上の衛生管理」については、防疫指針に明文化よてい。

●愛知県 制限狩猟禁止に

犬山、小牧、春日井の各市で狩猟を制限する。制限する各市のエリアは今後検討する。

9月に岐阜市の養豚場で豚コレラが発生し、10/30に岐阜県可児市で捕獲されたイノシシ

からも、木曾川以南では初めてとなる豚コレラ陽性となった。犬山など3市は、可児市から10km圏内に含まれる。愛知県は、狩猟によってイノシシが通常的生活圏外に移動したり、人や車両にウイルスが付いたりして拡散する恐れがあると判断した。扶桑、大口両町も10km圏内に含まれるが、イノシシの生息は確認されていない。

●岐阜県 狩猟禁止について、区域を限定して2019年3月15日まで延長

発生当初の対応についての検証結果も報告し、「危機管理意識の欠如が各段階の不備や遅れを招いた原因の一つ」などと指摘。

豚コレラに感染したイノシシは岐阜市の椿洞、大洞両地区を中心に発見されていたが、11月に入り、可児市の西帷子地区でも確認。感染の拡大を受け、岐阜県は、これまで発生農場から半径10km圏内などとしていたイノシシの調査対象区域を、6日から、これら3地区の半径10kmの円内に切り替える。

岐阜県は、現在、11/14まで20市町で狩猟を禁止中。11/15には県内で猟銃を含む狩猟が解禁されるが、同じ20市町で、陽性のイノシシが発見されている区域周辺などに限定して2019年3月15日まで狩猟を禁止。道路や谷などで区域を指定。今後、猟友会向けの説明会を開く。発生当初の対応の検証では、「関係者に『まさか内陸県の岐阜で26年ぶりに豚コレラが発生することはないだろう』との思い込みがあった」と指摘。初動に問題があったとして、岐阜県の「防疫対策要領」を年度内に全面改定する。また、訓練の実施、豚コレラの情報を覚知した時点で「家畜伝染病対策情報集約センター(仮称)」を設置する。

●岐阜県検証 思い込みで危機意識欠如 豚コレラ

岐阜市の養豚場で発生した豚コレラを巡る行政対応について「『内陸県でまさか豚コレラが発生することはない』


	<p>と思ひ込み、危機管理意識が欠如していた」とする検証報告をまとめた。報告によると、岐阜市は8月9日に養豚場から豚の不調を相談され、16日以降、複数の豚の衰弱を確認したが「豚コレラは教科書の中の病気」との思ひ込みがあり、24日まで県に連絡しなかった。県も当初は熱射病と診断しており、9月7日に遺伝子検査で陽性判定が出ても「半信半疑だった」。</p> <p>一方、問題の養豚場は感染確定まで、豚の死骸を混ぜたふんを市内の堆肥場に搬入したとされる。ただ、養豚場は否定しており、今後、堆肥場への立ち入り検査を行い確認する。岐阜県は年度内に、豚コレラへの具体的な対応マニュアルを整備。古田肇知事談「油断や思ひ込みが初動の混乱につながった。教訓にしていく」。</p> <p>●岐阜 野生イノシシ 2 頭感染 豚コレラ 計 45 頭(捕獲 24 頭)</p> <p>岐阜市及び関市(2 頭とも調査対象区域において捕獲、豚コレラ発生養豚場から約 6.7~7km)</p> <p>①岐阜市椿洞地内(H30.11.5 発見)捕獲、雌、成体、約 105 cm、約 60 kg</p> <p>②関市倉知地内【くくり罠】(H30.11.5 発見)、調査捕獲、雄、成体、約 125 cm、約 90 kg</p> <p>調査対象区域(11 月 6 日から実施)</p> <p>①岐阜市椿洞地区の陽性個体の発見箇所の重心を中心とした 10km 区域</p> <p>②岐阜市大洞地区の陽性個体の発生箇所の重心を中心とした 10km 区域</p> <p>③可児市西帷子地区の陽性個体の発見箇所を中心とした 10km 区域</p>	
2018.11.3	<p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 43 頭(捕獲 22 頭)</p> <p>岐阜市岩崎地内(H30.11.3 発見、養豚場から約 6.4km 西)、死亡、雄、成体、約 110 cm、約 40kg</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 38 報目発生 山西省太原市陽曲県西凌井戸郷 農場:飼養頭数 47 頭中 25 頭発症、うち 7 頭死亡</p> <p>●10.2-11.3 中国 高病原性鳥インフルエンザ (H5N6 亜型) 発生 雲南省 家きん農場 2 件</p>
2018.11.2	<p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 42 頭(捕獲 22 頭)</p> <p>感染のイノシシ山県市で初確認 豚コレラ調査区域追加発生農場から北西に 8.1km 離れた山県市佐賀の山中(11/1捕獲)野生イノシシ(くくり罠、雄、子、約 70 cm、約 20kg)が豚コレラに感染。感染したイノシシは 42 頭目で、山県市で見つかったのは初めて。</p> <p>岐阜県は発見場所から半径 10km 圏内を含む加茂郡川辺町、八百津町、可児郡御嵩町の3町と、可児市の旧兼山町地域を新たに調査対象区域に追加し、11/7-14 日まで狩猟を制限することを決めた。</p> <p>11/2 に美濃加茂市内で県猟友会や市町の担当者向けに説明会を開催。県に登録する狩猟者 3600 人に対しても文書で通知。</p>	
2018.11.1	<p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 41 頭(捕獲 21 頭)</p> <p>岐阜県可児市の山中(豚コレラ発生養豚場から約 15.1km 南東)で、くくり罠にかかっていた野生イノシシ(10.30 発見、雄、子、約 70cm、約 20kg)が豚コレラに感染。</p> <p>木曽川を隔てた可児市での確認は初めてで、これまでの発見場所とは山域が違っていることから、調査捕獲の対象地域を拡大するかどうか検討。</p>	



<p>2018.10.31</p>	<p>●宮崎県 牛白血病チェックし上場 雌子牛を有利販売 宮崎県内の各家畜市場が、牛白血病の自主検査をクリアした和牛雌子牛をせりに上場し有利販売につなげている。JA や畜連が費用を助成するなどし、出荷 1~3 カ月前の牛を農家の任意で検査。陰性牛は引き合いが強く、市場に新規購買者を呼び込み、高値で取引。市場による和牛雌子牛の牛白血病検査は全国でも珍しい取り組み。全国で牛白血病の発症頭数が増加傾向にある中、雌牛を子牛のうちに検査することで、和牛ブランドの底上げを図る。</p> <p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 40 頭(捕獲 20 頭) 岐阜市彦坂内の山中でくくり罠で捕獲した野生イノシシ 1 頭(10.29 発見、雌、子、約 70cm、約 20kg)の感染を新たに確認。イノシシの感染は 40 頭目。</p>	<p>●台湾 中国産ソーセージからアフリカ豚コレラ陽性反応 (台北 31 日 中央社)離島・金門の水頭埠頭で入境前の旅客用の農産物廃棄箱に捨てられていた中国産ソーセージからアフリカ豚コレラ(ASF)の陽性反応が出たと行政院(内閣)農業委員会発表。台湾での確認は初。 同埠頭は台湾の離島と中国を結ぶ渡航ルート「小三通」の指定港。ウイルスが検出されたソーセージは中国の肉製品加工メーカーが製造したもので、このメーカーの中国国内のと畜場肉ではすでに発生が確認されていた。 台湾は ASF や口蹄疫の発生地域からの家畜や肉製品の持ち込みに対し、最高 1 万 5000 台湾元(約 5 万 5000 円)の過料を科している。</p> 
<p>2018.10.30</p>		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 37 報目発生 65 雲南省普洱市思茅区:飼養頭数 36 頭中 5 頭発症、うち 1 頭死亡 64 湖南省懷化市陵県:飼養頭数 144 頭中 25 頭発症、うち 22 頭死亡 63 山西省太原市陽曲県:飼養頭数 210 頭中 75 頭発症、うち 47 頭死亡 ※発生地域は 1 市 11 省 1 区 65 か所(57 農場、2 施設、6 村)に拡大。</p>
<p>2018.10.28</p>	<p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 39 頭(捕獲 19 頭) 関市稲口地内【くくり罠】(H30.10.28 発見、豚コレラ発生養豚場から約 7.3km 東) 調査捕獲 雌 成体 約 95 cm 約 60 kg</p>	
<p>2018.10.27</p>		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 36 報目発生 湖南省常德市桃源県 農場:飼養頭数 7,684 頭中 106 頭発症、99 頭死亡</p>
<p>2018.10.26</p>	<p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 38 頭(捕獲 18 頭) 岐阜市芥見地内【山地、豚コレラ発生養豚場から約 2.3km 東】(H30.10.26 発見)、死亡、雌、成体、約 130cm、約 70kg</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 35 報目発生 59-61: 貴州省畢節市七星関区:3 件:飼養頭数 49 頭中 25 頭発症、25 頭死亡</p>
<p>2018.10.25</p>	<p>●中国稲わら一部輸入停止 中国でのアフリカ豚コレラ発生を受け、同国産稲わらの輸入を一部停止。中国東北部の遼寧省と吉林省にある日本向け稲わら加工施設の 3 割(25 カ所)が発生農場から周辺 50 キロ圏内にあり、2 国間で定めたルールに基づき輸入を停止。輸入稲わらは全て中国産で、中国産は国内の家畜飼料用稲わらの 2 割を占める。一方、和牛肥育では、牛の生体重量が 500 キロ(約 14 カ月齢)を超えてから出荷するまでの間は稲わらを給餌することから、全国の肉牛生産者団体は「国内肥育農家への影響は大きく、影響が長引く恐れがある。稲わらの早めの手当てが必要だ。」と指摘。</p> <p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 37 頭(捕獲</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 34 報目 58 カ所目 貴州省畢節市赫章県: 1 件農場: 飼養頭数 10 頭中 8 頭発症、8 頭死亡 ※今回、貴州省で初発生</p>



	<p>18 頭)          関市迫間地内【山地、豚コレラ発生養豚場から約 9.8km 東】(H30.10.24 発見)、死亡、雄、成体、約 100cm、約 40kg</p>	
2018.10.24-26	<p>●宮崎空港に検疫探知犬 試行          口蹄疫やアフリカ豚コレラなど家畜伝染病の国内への侵入を防ぐため、検疫探知犬で輸入禁止の畜産品などを見つける取り組みが宮崎空港で行われた。農林水産省動物検疫所と県が、旅行者に防疫への協力を呼びかける広報キャンペーンに合わせ公開。          検疫探知犬はビーグル犬「タンク」(7歳、オス)で、福岡空港から派遣。国内への持ち込みが禁止されている肉製品やフルーツが真空パックされていてもかぎ分ける能力を持つ。持ち込みに気付いたときは座り込み、職員に知らせる。          旅行者が入国審査を終えて受け取ったスーツケースなどの荷物のにおいをかいで回り、今回、ハンバーガーが摘発された。</p>	
2018.10.23	<p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 36 頭(捕獲 18 頭)          岐阜市岩崎地内【山地、豚コレラ発生養豚場から約 5.9km 北西】(H30.10.23 発見)、死亡、雄、子、約 70cm、約 20 kg</p> <p>●米国 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 ミネソタ州 七面鳥農場          ・ミネソタ州から日本向けに輸出される生きた家きん          ・ミネソタ州の発生農場から半径 10km 以内の区域から日本向けに輸出される家きん肉臓器等及びこれらの加工品並びに家きんの卵(試験研究用に供される種卵を除く。)及びその加工品について輸入が停止</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 34 報目 58 か所目          貴州省畢節市赫章県: 1 件農場: 飼養頭数 10 頭中 8 頭発症、8 頭死亡 ※今回、貴州省で初発生</p> <p>●米国 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生          ミネソタ州 七面鳥農場 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生確認</p>
2018.10.22	<p>●千葉県 野鳥の糞便 低病原性鳥インフルエンザウイルス(H7 亜型)検出</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 33 報目 (56-57 か所目)          ・57: 湖南省常德市桃源県農場 飼養 268 頭中 208 頭発症、うち 31 頭死亡          ・56: 湖南省益陽市桃江県農場 飼養 546 頭中 44 頭発症、うち 17 頭死亡          ※発生は 1 市 10 省 1 区 57 か所(49 農場、2 施設、6 村)に拡大。</p>
2018.10.21	<p>●岐阜 野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 35 頭(捕獲 18 頭)          各務原市鶉沼宝積寺町【山地】(愛知県境から約 400 メートル地点)死亡 雄 成体 約 80cm 約 25kg</p>	
2018.10.20	<p>●岐阜 野生イノシシ 2 頭感染 豚コレラ 計 34 頭(捕獲 18 頭)          関市と岐阜市の山中でわなに掛かった2頭のイノシシが豚コレラに感染。          関市内で初発例。いずれのイノシシも県と猟友会が調査で仕掛けたわなで捕獲。          体長約 110cm の雄の成獣: 発生農場から東約 6.4km の関市倉知南で確認。          体長約 80cm の雌の子ども: 発生農場から北西約 10.4km の岐阜市石谷で確認。          21 日から、発見場所の半径 10km 以内にある 16 農場を立ち入り検査する。</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 31 報目 (53-54 か所目)          ・54: 雲南省昭通市鎮雄県母享鎮 農場: 飼養 353 頭中 247 頭発症、247 頭死亡          ・53: 雲南省昭通市鎮雄県牛場鎮 農場: 飼養 804 頭中 298 頭発症、298 頭死亡</p> <p>●中国 アフリカ豚コレラ 32 報目 (55 か所目)          浙江省台州市三門県 農場: 飼養頭数 2,280 頭中 56 頭発症、56 頭死亡</p> <p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生          雲林県北港鎮 : 1 件(七面鳥農場)</p>
2018.10.19	<p>●鹿児島出水水平野にツル 今季初飛来          国内最大のツルの越冬地、鹿児島県出水市の出水水平野</p>	

	<p>にナベヅル 2羽が今季初めて飛来 昨年 2017 年より 4 日遅いが、例年並み</p>										
2018.10.18	<p>●鹿児島出水平野にツル 今季初飛来 国内最大のツルの越冬地、鹿児島県出水市の出水平野にナベヅル 2羽が今季初めて飛来 昨年 2017 年より 4 日遅いが、例年並み</p> <p>●岐阜 野生イノシシ 3 頭感染 豚コレラ 計 32 頭(捕獲 16 頭) 豚コレラに感染した野生のイノシシ 3 頭が発見(10/17)。県の遺伝子検査で陽性。約?km の岐阜市打越地(約 100cm, 約 40kg, 死亡)や、約?km の彦坂地(約 90cm, 約 40kg, くくり罟)ほか、約?km 岐阜市石谷地(約 105kg, 約 60kg, くくり罟)ていた。いずれも約 7.2-10.2km 以内。</p>										
2018.10.17	<p>●岐阜 野生イノシシ 3 頭感染 豚コレラ 計 29 頭(捕獲 14 頭) 約 8.1~10.2km の山中などで、豚コレラに感染した野生のイノシシ 3 頭が発見(10/16)。感染を確認したイノシシは計 29 頭。県の遺伝子検査で陽性。約 10.2km 北西の岐阜市彦坂地の山中(約 120cm, 約 75kg, くくり罟)や、約 8.7km 東の各務原市各務車洞地の山の麓(約 75cm, 約 20kg, 箱罟)ほか、約 8.1km 北西の岐阜市城田寺地の道路脇で死亡(約 75cm, 約 20kg)していた。</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 29-30 報目(51-52 か所目) ・No.52: 山西省大同市左雲県 農場: 飼養頭数 15 頭中 7 頭発症、4 頭死亡 ・No.51: 遼寧省盤錦市大窪区 西安鎮 農場 : 飼養頭数 161 頭中 43 頭発症、43 頭死亡</p>									
2018.10.15	<p>●動物検疫所 和牛受精卵の海外向け不正輸出事案 和牛の凍結受精卵が動物検疫所の輸出検疫を受けずに中国に持ち出された事例があった。当該受精卵は、中国で輸入不可となり、日本に返送され、検査後、全量廃棄処分された。</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 28 報目(48-50 か所目) ・No.50: 遼寧省盤錦市大窪区王家街道 農場 : 飼養頭数 3,223 頭中 31 頭発症、20 頭死亡 ・No.49: 遼寧省盤錦市大窪区清水鎮 農場 : 飼養頭数 4,243 頭中 1,030 頭発症、1,030 頭死亡 ・No.48: 遼寧省鉄嶺市開原市慶雲堡鎮 農場 : 飼養頭数 6,640 頭中 50 頭発症、14 頭死亡</p>									
2018.10.14	<p>●岐阜 捕獲野生イノシシ 5 頭感染 豚コレラ 計 26 頭(捕獲 14 頭) 豚コレラ発生養豚場から 10km 圏内の各務原市と岐阜市の山中で、捕獲した 5 頭の野生イノシシが豚コレラ感染確認。感染イノシシは計 26 頭。養豚場から約 7.5km と約 8.4km の各務原市でそれぞれ 1 頭と親子 3 頭を、残り 1 頭は約 8.8km 離れた岐阜市で発見。県の遺伝子検査で陽性。</p> <p>●中国からの旅行客携行品 アフリカ豚コレラウイルス遺伝子陽性 10.14 上海から羽田空港に到着した旅客(東洋人)の携帯品ギョーザ(自家製, 非加熱状態, 0.4kg) 11.8 ASFV 遺伝子検査(PCR) 陽性 11.9 シーケンス解析 ASF ウイルス分離検査 陰性</p> <table border="1"> <tr> <td>2例目</td> <td>到着日: 2018年10月14日</td> <td>(上海発、羽田空港着)</td> </tr> <tr> <td>品目</td> <td>豚肉製品(0.4kg)</td> <td>(検疫探知犬)</td> </tr> <tr> <td>遺伝子陽性確認日</td> <td colspan="2">2018年11月9日</td> </tr> </table> 	2例目	到着日: 2018年10月14日	(上海発、羽田空港着)	品目	豚肉製品(0.4kg)	(検疫探知犬)	遺伝子陽性確認日	2018年11月9日		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 26 報目(44 か所目) 遼寧省鞍山市 1 件(豚農場): 飼養 180 頭のうち 14 頭発症 14 頭死亡</p> <p>●中国 アフリカ豚コレラ 27 報目(45-47 か所目) ・No.47: 遼寧省盤錦市大窪区王家街道王家村 農場: 飼養頭数 270 頭中 129 頭発症、129 頭死亡 ・No.46: 遼寧省盤錦市大窪区王家街道曙光村 農場: 飼養頭数 1,571 頭中 109 頭発症、109 頭死亡 ・No.45: 遼寧省錦州市北鎮市 農場: 飼養頭数 19,938 頭中 221 頭発症、221 頭死亡</p>
2例目	到着日: 2018年10月14日	(上海発、羽田空港着)									
品目	豚肉製品(0.4kg)	(検疫探知犬)									
遺伝子陽性確認日	2018年11月9日										
2018.10.13	<p>●岐阜 死亡野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 21 頭(捕獲 9 頭) 各務原市 豚コレラ発生養豚場から約 12km 南東の山中で、発見された死亡野生イノシシが豚コレラ感染確認。発生養豚場から 10km 圏外では初。</p>										
2018.10.12		<p>●中国 口蹄疫(O 型)発生 内モンゴル自治区 農場 牛 1 件</p> <p>●中国 アフリカ豚コレラ 24,25 報目(42, 43 か所目) 【25 報目】天津市薊州区 1 件(豚農場): 飼養 639</p>									

		頭のうち 292 頭発症 189 頭死亡 【24 報目】遼寧省鞍山市 1 件(豚農場):飼養 120 頭のうち 88 頭発症 72 頭死亡
2018.10.10	●岐阜 豚コレラ、「移動制限区域」解除 しかし終息ではない 10 日午前 0 時 養豚場から半径 3 キロ圏内 豚や豚肉の「移動制限区域」解除。 感染確定から 1 ヶ月が経過した。野生イノシシの感染は持続しており、終息はしていない。野生イノシシの感染は 9 日現在で 19 頭。いずれも養豚場から 10 キロ圏内。	
2018.10.9	●岐阜 捕獲野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 20 頭 (捕獲 9 頭) 岐阜市 捕獲イノシシ 1 頭(岐阜県の遺伝子検査:陽性)	
2018.10.8	●岐阜 捕獲野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 19 頭 (捕獲 8 頭) 岐阜県各務原市 捕獲イノシシ 1 頭(岐阜県の遺伝子検査:陽性)	●中国 アフリカ豚コレラ 21,22 報目 (40 か所目) 【22 報目】10/8 遼寧省鞍山市台安県農場 飼養豚 460 頭中, 160 頭発症、160 頭死亡 【21 報目】10/7 遼寧省営口市大石橋市・老辺区 6 村 6 農場 飼養豚 3358 頭中, 334 頭発症、うち 93 頭死亡
2018.10.6	●岐阜 捕獲野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 18 頭 (捕獲 7 頭) 発生農場及び共同堆肥場周囲半径 10km の区域で発見・捕獲 県の遺伝子検査で陽性	
2018.10.5	●岐阜 捕獲野生イノシシ 1 頭感染 豚コレラ 計 15 頭 (捕獲 5 頭) 豚コレラ発生養豚場から北西に約 9.3km。これまで死亡したイノシシ 2 頭の感染が確認されている地区に近い。 体長約 70cm の子イノシシ雄。4 日にわなにかかっているのを猟友会員が発見。5 日に県中央家畜保健衛生所の遺伝子検査で陽性。	
2018.10.4	●岐阜 捕獲野生イノシシ 2 頭感染 豚コレラ 計 14 頭 (捕獲 4 頭) 豚コレラ発生養豚場から 10km 圏内の各務原市で捕獲した野生イノシシ 2 頭が豚コレラに感染確認。感染を確認したイノシシは計 14 頭。県によると、1 頭は養豚場から 5.9km 東の山中で、もう 1 頭は 8.1km 南東の山中で、いずれも 3 日午前、県猟友会がわなにかかったイノシシを発見、県の遺伝子検査で陽性。12 頭は 10km 圏内で 9 月 13 日～10 月 2 日に発見。うち 10 頭が岐阜市内、2 頭が各務原市で発見。	
2018.10.3	●岐阜 捕獲野生イノシシ 1 頭の感染確認 12 頭目(捕獲例 2 頭目) 岐阜市内の豚コレラ発生養豚場の北西約 7.9km で捕獲した野生イノシシ 1 頭が遺伝子検査で豚コレラの陽性。イノシシの感染確認は 12 頭目で、捕獲されたイノシシでは 2 頭目。イノシシは体長 110cm の雌の成獣。2 日朝、設置したわなにかかっているのを、市猟友会の会員が発見。周辺では他に 7 頭の感染イノシシの死骸が発見されている。	●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型) 発生 地鶏農場 1 件
2018.10.2	●岐阜 捕獲イノシシ 豚コレラ感染(初発例) 11 頭目(含死亡イノシシ) 豚コレラ発生養豚場から約 1.5 キロ南東で捕獲した野生イノシシが豚コレラに感染。感染を確認したイノシシは計 11 頭。調査捕獲イノシシでは初めて。県猟友会が 9 月 30 日、市内の山中で、わなにかかっているのを発見、県	●コンゴ民主共和国 エボラ出血熱発生(WHO 及びコンゴ民主共和国保健省) 北東部の北キブ州 エボラ出血熱発生。 10/2 までに 106 名死亡例、162 例患者(確定 130 例、疑い 32 例)

	<p>の遺伝子検査で陽性が判明。県は 25 日から、感染状況の把握や個体数削減を目的に猟友会と調査捕獲をしていた。これまでの 10 頭は 9 月 13～28 日に死骸が見つかった。うち 8 頭が岐阜市内、2 頭が同県各務原市。</p>	<p>8/8 高リスク群に対してワクチン接種開始、10/3 までに 13,750 名接種。</p>
2018.10.1	<p>●中国からの旅客携帯品からアフリカ豚コレラウイルス遺伝子 10.1 北京から新千歳空港到着した旅客の携帯品豚肉ソーセージ(1.5kg) 10.8 ASFV 遺伝子検査(PCR) 陽性(動物検疫所) 10.19 中国、ポーランド、エストニア、ロシア及びジョージアで分離された株と 100%一致(シーケンス解析結果) ASF ウイルス分離検査 陰性</p> <p>●中国からの旅客携帯品からアフリカ豚コレラウイルス遺伝子 10.1 北京から新千歳空港到着した旅客の携帯品豚肉ソーセージ(1.5kg) 10.8 ASFV 遺伝子検査(PCR) 陽性(動物検疫所) 10.19 中国、ポーランド、エストニア、ロシア及びジョージアで分離された株と 100%一致(シーケンス解析結果) ASF ウイルス分離検査 陰性</p>	
2018.9.30		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 20 報目(33 か所目) 遼寧省営口市大石橋市、老辺区の 5 農場。5 農場の飼養豚 378 頭中、102 頭死亡</p>
2018.9.28	<p>●岐阜 豚コレラ 野生イノシシ 9, 10 頭目 9/28 養豚場から約 10 キロ北西の岐阜市の山中と約 4.4 キロ東の同県各務原市の空き地で発見</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 19 報目(28 か所目)発生 吉林省松原市 飼養豚 44 頭のうち、8 頭発症 3 頭死亡。</p>
2018.9.27	<p>●岐阜 豚コレラ 野生イノシシ 8 頭目 各務原市 死亡イノシシ(9/27 発見) 豚コレラ感染。岐阜市以外 感染確認 初発例。死亡イノシシ発見場所は発生元の養豚場から約 7km 離れた場所。4.5km 北西の岐阜市内では 15 日に感染した野生イノシシの死骸が発見。</p>	
2018.9.26	<p>●岐阜 豚コレラ 野生イノシシ 7 頭目 岐阜市 9/26 死亡イノシシ 1 頭発見(発生元の養豚場から約 8km 離れた場所で発見)、岐阜県の遺伝子検査:陽性</p>	<p>●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 湖南省 家きん農場1件</p>
2018.9.25		<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県 肉用あひる農場1件</p> <p>●コンゴ民主共和国 エボラ出血熱発生(WHO 及びコンゴ民主共和国保健省) 北東部北キブ州 エボラ出血熱発生。 9/24 101 名死亡、151 例患者(確定 120 例、疑い 31 例)。 8/8-高リスク群のワクチン接種開始、9/25 までに 11,773 名ワクチン接種。</p>
2018.9.24		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 18 報目(27 か所目)発生 内モンゴル自治区呼和浩特市のと畜場 388 頭の豚のうち 4 頭発症、うち 2 頭が死亡</p>
2018.9.23	<p>●農水省 死亡イノシシ 11 県 豚コレラ陰性 岐阜県以外の都道府県が実施している、死亡野生イノシシを対象にした豚コレラの検査結果について、11 県 12 頭の結果の報告があり、いずれも陰性だった。14 日から、岐阜県の野生イノシシで豚コレラの陽性反応が出た</p>	<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 屏東県 死亡かも農場1件</p>



	<p>ため、他の都道府県でも死亡イノシシについて検査を求めている。報告があったのは山形、千葉、石川、福井、静岡、愛知、滋賀、島根、岡山、佐賀、宮崎の11県。</p> <p>●農水省 豚コレラ 鳥・ネズミも注意</p> <p>豚コレラウイルスが野鳥や小動物によって広がるケースがあるとして、豚舎や飼料の保管場所に入り込まないように、注意を促す。近距離の汚染拡大では、鳥やネズミなどが野外の汚染フンなどに触れて、持ち込むことがある。対策は農場に野生動物が侵入しないためのフェンスに加え、鳥類などが入り込まないようにネットが有効。豚舎や飼料置き場に入り込まないように確認し、補修が必要な場合は適切に処理することが重要。</p>	
<p>2018.9.21</p>	<p>●岐阜 豚コレラ 野生イノシシ 6 頭目</p> <p>岐阜市内で 21 日に発見された死亡野生イノシシ 1 頭で豚コレラの感染が確認。当該イノシシは、豚コレラ発生養豚場から約 8 キロ離れた公園施設内で発見。近くでは 18 日にも感染イノシシが発見された。現場から半径 10 キロ以内にある養豚場やイノシシ飼育農家計 8 か所の立ち入り検査を行う。</p> <p>●北海道内で牛の乳房炎1万頭以上 大規模停電の影響</p> <p>北海道内では地震による大規模停電の影響で電動搾乳機が使えず、乳房炎を発症する乳牛増加。根室・釧路管内を中心に1万頭以上発症。ホクレン農業協同組合連合会が9月上旬に酪農家から集荷した生乳量は前年同期比16%減。農協は自家発電機の導入を決めるなど対応を急ぐ。地震発生後の9/6～9/12に乳房炎と診断された牛は10,331頭(速報値、北海道農業共済組合連合会(札幌市))。8/30～9/5の5,386頭から倍増。乳房炎発症は根室・釧路管内が半数以上。ホクレンが9/1～9/10に道内の酪農家から受け入れた生乳の量は前年同期比16%減の86,091トン。</p> <p>●農水省 豚コレラ対策 野生動物侵入防げ 産地に徹底呼び掛け</p> <p>岐阜県で新たに3頭の野生のイノシシから、豚コレラの陽性反応が出たことを受け、農水省は全国の産地に対し、対策の徹底を改めて呼び掛けている。野生動物が養豚場に近寄らないよう、柵の設置など侵入防止の措置が重要。</p> <p>基本的な防疫対策</p> <p>①人や車両を消毒してイノシシの糞などを農場に持ち込まない</p> <p>②食品残渣飼料などに肉が含まれる可能性があるときは十分な加熱処理をすることなどの再徹底を求めている。</p> <p>家畜の死体を保管する場合には、その場所への野生動物の侵入を防ぐため、コンテナなどで保管するなど適切な措置を取ることを求めている。また、ネズミや野鳥などが糞を持ち込むことも考えられることから、ネットやフェンスの設置、壁や金網の補修も重視。飼料の保管場所などへも入り込まないように、十分な確認を求める。</p>	<p>●中国 口蹄疫(O型)発生</p> <p>広東省 家畜市場 豚1件、雲南省 豚1件</p>
<p>2018.9.20</p>	<p>●自粛と畜場 営業再開</p> <p>岐阜市の豚コレラ発生で営業を自粛していた関市のと畜場について、11日ぶりに営業を再開することを農水省と協議して決定。まん延防止に万全を期すため、出荷を再開する農場ごとに専属の家畜防疫員を配置し、出荷予定の豚は前日に全頭採血して遺伝子検査する。また、と畜場では生体検査の体制を2人に増員。搬入は1農場ずつ行い、入れ替え時に毎回消毒。</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ 17 報目 (25,26 か所目) 発生</p> <p>25 か所目: 吉林省四平市公主嶺市南子鎮 飼養豚 484 頭のうち 56 頭発症、56 頭死亡</p> <p>26 か所目: 内モンゴル自治区ヒンガン盟ホルチン右翼中旗 飼養豚 138 頭のうち 23 頭発症、うち 22 頭死亡</p>



2018.9.18	<p>●岐阜県岐阜市 死亡野生イノシシ3頭 豚コレラ陽性 岐阜市で18日に見つかった死亡した野生のイノシシ3頭について岐阜県の検査で豚コレラウイルスの陽性反応が確認された。今後、国の農研機構動物衛生研究部門で遺伝子検査を実施する。この3頭は、いずれも最初に発生が確認された養豚場から7～9キロ離れた岐阜市北部の公園や畑、道路沿いで発見された。性別は不明。2頭は子ども。</p>	<p>●コンゴ民主共和国 エボラ出血熱発生 9月18日までに97名の死亡、142例患者(確定111例、疑い31例)。8月8日に高リスク群に対してのワクチン接種が始まり、9月19日までに、10,352名がワクチンの接種を受けた。WHOは8月16日、今回のエボラ出血熱の流行を、一国内における緊急事態の最高値であるグレード3の危機と宣言。今回の発生地域では、反政府勢力による非人道的行為が行われており、以前より外務省から退避勧告が出ている。厚生労働省では、検疫や国内での対応強化のため注意喚起を行っている。</p>
2018.9.17		<p>●中国 アフリカ豚コレラ16例目 内モンゴル自治区 シ林郭勒盟、飼養159頭中、14頭発症、8頭死亡。</p>
2018.9.16	<p>●岐阜県岐阜市 死亡野生イノシシ1頭 豚コレラ陽性(2例目) 9/15 pm1:40 ごろ、養豚場から東に約3.5km離れた岐阜市内の民家の庭で、死亡イノシシ(体長50cm)発見・通報 9/16 簡易検査 陽性。野生イノシシの陽性反応は2例目。農林水産省で遺伝子検査を実施。 1例目の野生イノシシの発見場所とは約10.5km離れ、養豚場を挟んで反対側。県は周辺を消毒し、検体を採取後に焼却。被害の拡大防止策として、県内の養豚場など全51カ所に対し、野生イノシシの畜舎侵入を防ぐ電気柵を貸し出す。県は全戸分の資材を購入し21日以降、岐阜市などの養豚場を優先する。</p>	
2018.9.15	<p>●北海道地震影響 受託乳量16%減 9月上旬 ホクレン ホクレンの9月上旬の生乳受託乳量が前年同期比16%減の約8万6000トと大幅に減った。北海道地震による停電で、工場を停止した乳業メーカーが受け入れできずに、生乳廃棄が発生したことなどが原因。乳牛のダメージが深刻なことに加え、今後、品質悪化が懸念されている一番草のサイレージ給与が本格化するため、影響は長期化する見通し。 ●岐阜県 野生イノシシから豚コレラウイルス検出 岐阜市で見つかった野生のイノシシの死骸から豚コレラウイルスが検出された。県の遺伝子検査で陽性反応を示し、国の機関の分析で確定。イノシシの発見場所は、豚コレラが発生した市内の養豚場から半径10キロ圏内。13日午前、市内の道路脇にある水路で、野生のイノシシ1頭が死んでいると住民から市に通報があった。イノシシは雌で体長約1メートル。目立った外傷はなかった。県は現場周辺の消毒を終え、死骸を14日中に焼却する。死骸の発見場所から半径10キロ圏内を調査対象区域に追加し、県内全42市町村や猟友会に対し、死んだり、捕獲したりした野生イノシシについての情報提供を依頼。</p>	
2018.9.14	<p>●農林水産省 動物検疫所 ベルギーにおいてアフリカ豚コレラの発生が確認されたことから、同国から日本向けに輸出される豚肉等の輸入が停止。※「豚」には、イノシシを含みます。 ●農林水産省 死亡野生イノシシ 全国 豚コレラウイルス検査 豚コレラ防疫を徹底するため、死亡野生のイノシシを見つけた場合には豚コレラを検査するよう全都道府県に要請。</p>	<p>●中国 アフリカ豚コレラ15例目 ①内モンゴル自治区 シ林郭勒盟、16頭発症、16頭全頭死亡。221頭とう汰。 ②河南省 新郷市、148頭発症、64頭死亡。2,023頭とう汰。  ●ベルギー アフリカ豚コレラ発生 野生イノシシ</p>

	<p>●農林水産省 動物検疫所 岐阜市の豚コレラ発生農場で感染した豚の遺伝子解析をしたところ、これまでに国内で発生したウイルスとは別の型であることを明らかにした。</p> <p>●農林水産省 動物検疫所 韓国向けに輸出される豚原皮について、輸出検疫証明書の交付を再開。 国内で豚コレラの発生が確認されたことから、9月9日より豚及びイノシシ並びにそれら由来製品の輸出検疫証明書の交付を停止していた。</p> <p>●農林水産省 動物検疫所 香港向けに輸出される豚原皮について、岐阜県以外に位置している食肉処理施設にてと畜を行った豚に由来するもの、又は炭酸ナトリウムが2%含まれた海塩で28日以上浸漬したものに対する輸出検疫証明書の交付を再開。 国内で豚コレラの発生が確認されたことから、9月9日より豚及びイノシシ並びにそれら由来製品の輸出検疫証明書の交付を停止していた。</p>	
2018.9.13	<p>●農林水産省 動物検疫所 台湾向けに輸出される豚肉及び豚原皮について、輸出検疫証明書の交付を再開。 国内で豚コレラの発生が確認されたことから、9月9日より豚及びイノシシ並びにそれら由来製品の輸出検疫証明書の交付を停止していた。</p> <p>●北海道地震1週間 乳房炎多発 最大震度7を観測した北海道地震発生から1週間。全道が一時停電したことで酪農家が深刻な事態。停電により満身に搾乳できず、乳量・乳質低下の要因となる乳房炎が多発。淘汰された牛や、死亡牛も発生。酪農専業地帯では、地域経済への影響が懸念。道東NOSAIでは、根室地方の9月6～10日の5日間の乳房炎診断件数は3761件と先月と比較して1400件ほど増加。別海町が最も多く、前月比8割増の2457件。</p>	
2018.9.10	<p>●農林水産省 動物検疫所 香港向けに輸出される豚肉について、岐阜県以外で生産・処理されたことが確認できたものに対する輸出検疫証明書の交付を再開。 国内で豚コレラの発生が確認されたことから、9月9日より豚及びイノシシ並びにそれら由来製品の輸出検疫証明書の交付を停止していた。</p> <p>●農林水産省 動物検疫所 米国カリフォルニア州の七面鳥農場において低病原性鳥インフルエンザ(H7亜型)の発生が確認されたことから、 ・カリフォルニア州から日本向けに輸出される生きた家きん ・カリフォルニア州の発生農場から半径10km以内の区域から 日本向けに輸出される家きん肉、臓器等及びこれらの加工品並びに家きんの卵(試験研究用に供される種卵を除く。)及びその加工品について輸入が停止。</p>	<p>●米国 低病原性鳥インフルエンザ(H7亜型)発生カリフォルニア州 七面鳥農場</p> <p>●中国 アフリカ豚コレラ14例目(21か所目)確認「農場数・施設数」 安徽省 銅陵市 義安区の農場 飼養豚219頭中63頭発症、うち23頭死亡</p>
2018.9.9	<p>●農林水産省 動物検疫所 国内で豚コレラの患畜が確認されたことから、豚及びイノシシ並びにそれら由来製品の輸出検疫証明書の交付を停止。 <a href="http://www.maff.go.jp/aqs/">http://www.maff.go.jp/aqs/</a></p>	

	<p>●岐阜市 豚コレラ(家畜伝染病予防法: 家畜伝染病(法定伝染病))確認  所在地: 岐阜県岐阜市  飼養状況: 繁殖豚(79 頭)、肥育豚(531 頭)  9/3 養豚場で死亡豚約 80 頭を発見。死亡豚の通報、病性鑑定実施  9/8 豚コレラの疑い(岐阜県家保検査)  9/9 豚コレラ患畜(動衛研精密検査)(アフリカ豚コレラは否定)  死亡豚を含めた全飼育 610 頭を処分</p>	
2018.9.8		<p>●韓国 中東呼吸器症候群(MERS)発生(3 年ぶり)  患者情報:  9/6 まで中東のクウェートに渡航  9/6~9/7 にかけてドバイを経由して韓国に帰国  帰国後は病院の隔離病棟に転送  その後の検査で MERS 陽性確認  <b>MERS :</b>  2012.9 以降、アラビア半島諸国を中心に発生の報告がある感染症  2018.8.30 までに、世界で 2,246 名が MERS と診断  韓国では 2015 年に、輸入症例を発端とする大規模な流行があり、同国内での MERS 患者発生は 3 年ぶり。</p>
2018.9.7		<p>●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生  青海省 肉用鶏農場1件</p>
2018.9.6		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 10 例目確認  安徽省ジョ州市の農場、飼養豚 886 頭中、62 頭が症状を呈し、22 頭が死亡  ●中国 アフリカ豚コレラ 11 例目確認  黒龍江省 木斯市 向陽区の農場、飼養豚 203 頭中 26 頭発症、10 頭死亡  ●中国 アフリカ豚コレラ 12 例目確認  安徽省蕪湖市南陵県の農場、飼養豚 30 頭中 13 頭発症、4 頭死亡  ●中国 アフリカ豚コレラ 13 例目確認  安徽省宣城市宣州区の農場、飼養豚 52 頭中 15 頭発症、15 頭死亡</p>
2018.9.5		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 9 例目確認  黒龍江省 佳木斯市 郊区 長青郷の農場、飼養豚 87 頭中 39 頭発症、うち 12 頭死亡</p>
2018.9.3		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 7 例目確認  安徽省 宣城市 宣州区の農場、飼養豚 308 頭中 152 頭発症、うち 83 頭死亡</p>
2018.9.2		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 6 例目確認  【1】安徽省 宣城市 宣州区 古泉鎮の農場、飼養豚 285 頭中 40 頭死亡  【2】安徽省 宣城市 宣州区 五星郷の農場、飼養豚 440 頭中 94 頭死亡</p>
2018.8.30		<p>●中国 アフリカ豚コレラ 5 例目確認  安徽省蕪湖市 農場飼養豚 459 頭のうち、185 頭発症、うち 80 頭死亡。</p>
2018.8.27		<p>●韓国 中国加工食品からアフリカ豚コレラウイルス遺伝子検出</p>

		中国遼寧省瀋陽から帰国した旅行者が持ち込んだ加工食品から、アフリカ豚コレラのウイルスの遺伝子が検出された。加熱された食品で、伝染の可能性は低い。
2018.8.22		●中国 アフリカ豚コレラ 4 例目確認 8/17 浙江省温州市悦清市 繁殖農場 3 件 原因不明で死亡。430 発病 340 頭死亡。 8/22 中国動物疾病研究センター アフリカ豚コレラと確定
2018.8.19		●中国 アフリカ豚コレラ 3 例目確認 江蘇省連雲港市 発生数: 1 件(豚、農場) 発生状況: 88 頭の豚が死亡、8000 頭以上殺処分
2018.8.18		●中国 口蹄疫(O 型)発生 内モンゴル自治区 ウランチャブ市 1 件(牛)
2018.8.16		●中国 アフリカ豚コレラ 2 例目確認 河南省鄭州市 発生数: 1 件(豚、と畜場) 発生状況: 黒竜江省の交易市場から搬入された豚 260 頭のうち、死亡した 30 頭で症状を確認し、検査の結果、アフリカ豚コレラと確定。
2018.8.15		●中国 口蹄疫(O 型)発生 新疆ウイグル自治区 バインゴリン・モンゴル自治州 1 件(牛、農場)
2018.8.13		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 屏東県 1 件(採卵鶏農場)
2018.8.8		●中国 口蹄疫(O 型)発生 河南省 1 件(豚、と畜場)
2018.8.7	●マレーシアから日本向けに輸出される家きん肉等について輸入停止 マレーシア 高病原性鳥インフルエンザ(H5:N1)発生のため	●マレーシア 高病原性鳥インフルエンザ(H5:N1)発生
2018.8.3		●中国 アフリカ豚コレラ発生 遼寧省瀋陽市瀋北新区でアフリカ豚コレラ発生、中国で第 1 例目。 8月1日: 遼寧省瀋陽市瀋北新区の某繁殖農家の豚にアフリカ豚コレラらしき症状が現れ、383 頭飼養のうち、47 頭で発病、47 頭死亡。農業農村部は、知らせを受けた後すぐに、当該地域に各種防疫措置とサンプリング検査の実施を指導した。 8月3日: 中国動物衛生・流行病学センター(国家外来動物疫病研究センター)での診断を経て、アフリカ豚コレラと確定。 疫病発生後、農業農村部は「アフリカ豚コレラ緊急計画」に基づき、レベル2の緊急対応を発令。当該発生地域では要求に応じ、応急措置の体制を整え、封鎖・殺処分・無害化処理・消毒を行い、封鎖されたエリア内への豚・感染しやすい動物・物品の持ち込み、或いはエリア外への持ち出しを禁止。瀋陽市は既に一時的に市全範囲における豚の対外運送を停止しており、現在、疫病発生状況は有効にコントロールされている。農業農村部はアフリカ豚コレラは人へは感染しないと認め

		いる。また同時に、豚の飼養者に対して疫病発生エリアからの豚の運搬を厳格に禁じ、日常的な消毒を心がけ、できる限り豚を閉じ込めてイノシシやダニとの接触をできる限り避けることを呼びかけている。また、高温処理されていない水や残飯を餌として与えることを厳禁している。原因不明の死亡、アフリカ豚コレラに似た症状があった場合は直ちに当地の獣医部門へ通知するように要請している。
2018.7.27		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 雲林県 1 件(地鶏農場)
2018.7.24	<p>●外国人就労新在留資格 来年4月に創設か閣僚会議(安倍首相、上川陽子法相、斎藤健農相ら出席) 人手不足が深刻な業種で外国人の就労を認める新たな在留資格の創設(来年4月を目指して準備)検討を加速。</p> <p>今後、外国人の受け入れ対象業種について、従来検討してきた農業や介護など5業種以外にも広げ、外国人の在留管理を一元的に担う官庁の立ち上げも検討。経済財政運営の基本方針「骨太の方針」に新たな在留資格の創設を盛り込んだ。</p> <p>日本語能力試験に合格した外国人を対象に、通算5年を上限に就労を認める。</p> <p>3年間の技能実習の修了者は試験を免除する。(秋の臨時国会に関連法案を提出方針)</p> <p>受け入れ業種の追加も検討し、年内にも受け入れ業種を正式決定する見通し。</p> <p>●西日本豪雨 愛媛県の食肉処理場停止</p> <p>愛媛県唯一の牛豚食肉処理施設が浸水で稼働停止。県外での処理で対応だけでは、処理量に追い付かない。</p>	
2018.7.18		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 雲林県 1 件(肉用あひる農場)
2018.7.16		●中国 口蹄疫(O 型)発生 内蒙古自治区 1 件(牛)
2018.7.12		●フランス 低病原性鳥インフルエンザ(H7N7 亜型)発生 ヴァル・ドワーズ県(Val-D'Oise)
2018.7.5	<p>●家きんの飼養衛生管理基準順守率 85.6%(平成 29 年 11 月 30 日)(農林水産省 公表)</p> <p>100 羽以上飼養(採卵鶏 3884 農場、肉用鶏 3513 農場、卵用種鶏 128 農場、肉用種鶏 495 農場、あひる 82 農場、うずら 44 農場、きじ 60 農場、ほろほろ鳥 6 農場、七面鳥 9 農場、だちょう(10 羽以上飼養)34 農場)を調査。飼養衛生管理基準の全項目を順守している農場(指導後に改善された農場含む)は、全体で前年度の 84.8%から 29 年度は 85.6%に向上した。残り 14.4%は現在指導中。</p> <p>全項目で順守率は 90%を超え、課題であった「出入りする車両の消毒」と「出入りする者の手指・靴の消毒」について、</p> <p>鶏(採卵用と肉用)の農場の順守率が前年度の 87.7~98.8%から 29 年度は 91.7~99.2%に向上。</p> <p>鶏(採卵用)における「防鳥ネットの設置・修繕」と「家きん舎の破損か所の修繕」の順守率</p> <p>前年度の 94.6~97.7%から 29 年度は 92.6~96.0%に低下。</p>	



	<p>〈採卵鶏〉基準順守「指導不要」  100～1000羽で58.2%(前年57.8%)  1000羽以上で71.4%(同73.7%)  指導による「改善済」含順守率  100～1000羽で74.9%(同72.5%)  1000羽以上で81.7%(同81.7%)  〈肉用鶏〉基準順守「指導不要」  100～1000羽で73.5%(同69.9%)  1000羽以上で83.3%(同83.4%)  指導による「改善済」含順守率  100～1000羽で84.6%(同82.1%)  1000羽以上で90.4%(同90.4%)  〈卵用種鶏〉基準順守「指導不要」  100～1000羽で100%(同100%)  1000羽以上で92.9%(同95.6%)  指導による「改善済」含順守率  1000羽以上で94.4%(同97.1%)  〈肉用種鶏〉基準順守「指導不要」  100～1000羽で91.7%(同100%)  1000羽以上で90.1%(同92.8%)  指導による「改善済」含順守率  100～1000羽で91.7%(同100%)  1000羽以上で95.2%(同96.3%)</p>	
2018.7.4		●中国 口蹄疫(O型)発生 広東省1件(豚、家畜市場)
2018.7.2		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県 七面鳥農場1件
2018.6.29	<p>●第2回「薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動表彰」の取組事例募集中(6月29日(金)〆切)  薬剤耐性(AMR)対策の普及啓発活動の取組について募集し、優良事例を表彰。対象は個人又は団体で、自薦、他薦不問。  優良事例には、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、薬剤耐性対策推進国民啓発会議議長賞(毛利衛さん)、「薬剤耐性へらそう！」応援大使賞(JOYさん、篠田麻里子さん)が贈呈。  先進的な取組、多くの国民や多くの分野に広がるような取組など公募。  詳細は以下の募集ページ参照。  &lt;第2回薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動表彰の募集について&gt;  <a href="http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/infection/event/amrform2018.html">http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/infection/event/amrform2018.html</a></p>	
2018.6.27	<p>●アルゼンチン・パタゴニア地域から日本向けに輸出牛及びめん羊の肉及び臓器並びにそれらを原料とするソーセージ、ハム及びベーコンの家畜衛生条件が締結された。</p>	
2018.6.26		<p>●1.12-6.26 台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)発生4件  ・発生場所:雲林県の家きん(採卵鶏、肉用鶏、あひる)農場3件、屏東県の家きん(採卵鶏)農場1件</p>
2018.6.22		<p>●6.21-22 台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生2件  ・発生場所:雲林県の家きん(肉用あひる)農場2件</p>

2018.6.19		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 雲林県 1 件(肉用あひる農場)
2018.6.18		●コンゴ民主共和国 エボラ出血熱発生 北西部赤道州 エボラ出血熱流行 28 名死亡、確定例 38 例、疑い例 28 例
2018.6.15		●ポーランド 鶏卵の殺虫剤残留 抗生剤ラサロシドによる卵の汚染発見。430 万個の卵回収。鶏の増体用に使用する抗生剤が誤って産卵鶏に与えられてしまったことが原因。
2018.6.13	●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生[第 5 シーズン(平成 29 年 9 月～)の 1 例目] 垂水市 1 件 ※第 4 シーズン(～平成 29 年 8 月)までに発生していた鹿児島県内の農場は全て非発生農場扱い。 ●山口県 コイヘルペス陽性反応確認 防府市 養殖されていたニシキゴイからコイヘルペスの陽性反応が確認。 2018 年 4 月にオランダに輸出したニシキゴイが死に、輸出先で感染が確認。連絡を受けた業者が先月、養殖場で死んだあとに冷凍保存されていた検体について県に検査を求め、陽性が確認。 コイヘルペスウイルスはほかの魚や人へは感染せず、感染したコイを食べても人体に影響はない。周辺の水路などの監視を強化中。	
2018.6.12		●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 亜型)発生 青海省 ブロイラー農場 1 件 ●ドイツ 鶏卵の殺虫剤残留 フィプロニルの汚染卵がドイツ 6 州で販売、約 73,000 個回収。オランダのオーガニック農場で育てた卵が汚染されたのが原因。フィプロニルは EU の許容限度(0.005mg/kg)超過。人体には影響がない。5/17 日～6/4 日の間に出荷された卵が汚染卵。 オランダ当局は、鳥インフルエンザの影響を受けないよう鶏の屋内飼育を農家に課していたが、その措置を解除。この対策が今回の回収措置に関連しているのか確認中。今回事件を起こした生産者は、鶏舎の消毒するための洗浄剤として殺虫剤を使用したことを認めた。混合したのは Dega 16。ドイツはオランダの卵を輸入する最大の市場。
2018.6.11		●フランス 豚コレラ清浄性確認 豚コレラの発生を理由に輸入禁止措置がとられているフランス北東部の 3 県(ムールト・エ・モゼール、モゼール、バラン)について清浄性が確認。
2018.6.10		●中国 口蹄疫(O 型)発生 広西チワン族自治区 1 件(豚) ●中国 口蹄疫(O 型)発生 雲南省 1 件(豚_家畜市場)
2018.6.8	●死亡牛検査「96 カ月以上」へ 農水省 食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会 BSE に関する特定家畜伝染病防疫指針のうち、一般死亡牛の検査対象月齢を「96 カ月齢以上」に引き上げる同省案諮問、プリオン病小委員会で技術的な議論を行うことが決定。月齢が引き上げられると、現行 6 万～7 万頭の年間検査頭数が 6 割減の約 2 万 4,000 頭まで減少。	

	<p>今回の検査対象月齢上げは、OIE(国際獣疫事務局)BSE ステータスの「無視できるリスク」を維持するのに必要なサーベイランスポイント(10万頭に1頭のBSE感染牛を見つけられるだけの精度)を確保しつつも、検査の効率化を図る。</p> <p>ステータスを維持するには7年間で15万ポイントが必要となる。これを1年あたりに換算すると2万1,429ポイントになる計算。現在の検査対象月齢「48カ月齢以上」だと、1年当たり7万ポイント余りと目標値の3倍以上。一般死亡牛外の臨床疑い牛については全月齢、起立不能牛については48カ月齢以上を検査対象にする体制は維持。</p>	
2018.6.5		●中国 口蹄疫(O型)発生 貴州省 牛1件
2018.5.31		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 台南市 肉用あひる 1件 ●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県 家さん(地鶏)農場 1件
2018.5.29	<p>●日本産牛肉の豪州向け輸出再開(17年ぶり) 農林水産省発表 日本産牛肉のオーストラリア向け輸出が17年ぶりに再開 厚生労働省認定施設での処理などが条件 豪州向けは日本でのBSE発生を受け、2001年9月から輸出禁止に</p>	
2018.5.28		<p>●ニュージーランド <i>Mycoplasma bovis</i> 感染牛 12万8千頭殺処分に NZ政府は <i>M. bovis</i> 感染牛根絶のため今後10年間で8億8600万NZD(約670億円)を投じる。 NZでは2017年7月に <i>M. bovis</i> に感染牛が南島の農場で発見以降、感染が拡大。現在、38農場で確認され、既に約2万4千頭が殺処分された。感染すると乳房炎や肺炎などを引き起こす。 NZには約1千万頭の牛が飼育され、うち約2/3が乳牛で1/3が肉牛。</p> <p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 彰化県 家さん(肉用あひる)農場 1件</p> <p>●スウェーデン家さん 低病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)発生</p>
2018.5.25	<p>●家畜の輸入状況 2017年度 会員輸入実績 1.9万頭 日本家畜輸出入協議会 会員輸入実績 1万8,827頭で前年度比 44.1%増。 内訳 馬 3,916頭(16.4%増、うち肥育用素馬 3,464頭・19.0%増) 牛 1万3,743頭(54.7%増、肥育用素牛 1万1,561頭・35.3%増) 豚 1,032頭(33.3%増、すべて繁殖用豚)</p>	
2018.5.22	<p>●千葉県 豚コレラ疑い→陰性 5/24 県北東部の養豚場 簡易検査では豚コレラ陽性反応 約6000頭飼育養豚場 24頭豚死亡、21頭下痢</p>	●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H7N9)発生 遼寧省 1件 採卵鶏農場
2018.5.20		●中国 口蹄疫(O型)発生 安徽省 牛1件(牛・裏庭農場)
2018.5.16		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 台南市 1件(肉用がん農場)

2018.5.15		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 雲林県 1 件(地鶏農場)
2018.5.14	●アルゼンチン一部地方から牛肉輸入を解禁 斎藤健農相とアルゼンチンのエチェベレ農産業大臣会談 両国間の牛肉貿易拡大で一致 来 6 月、ブエノスアイレスで開かれる G20 農業大臣会合までに、同国南部パタゴニア地方の牛肉・羊肉と、日本産牛肉で相互に輸出を始めることを目指す。 アルゼンチンでは 2006 年まで口蹄疫が発生していたが、北部は口蹄疫ワクチンの接種で 2011 年までに、南部はワクチンを使わずに 2014 年までに段階的に清浄化が OIE によって認定された。	●中国 口蹄疫(O 型)発生 湖北省 1 件(牛・山羊農場)  ●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 台北市 1 件(と畜場:地鶏)
2018.5.13		●ミャンマー 口蹄疫(O 型)発生 ラカイン州 発生数:5 件(牛)
2018.5.9		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 台北市 1 件(と畜場:地鶏)
2018.5.7		●デンマーク 家きん 低病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)発生
2018.5.4		●中国 口蹄疫(O 型)発生 湖北省 農場 牛・山羊 1 件
2018.5.3		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県 家きん(肉用がん)農場1件
2018.4.25		●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H7N9)発生 寧夏回族自治区 1 件(採卵鶏農場)
2018.4.23	●豚・鶏・乳製品、EUに輸出へ 農林水産省は欧州連合(EU)が輸入を認めていない日本産の豚肉や鶏肉など畜産4品目の解禁に向け、EU向けの検査制度を設ける予定。 農水省は、EUに輸出するためのガイドラインを作成し、基準を満たした生産者や加工施設を認定する。豚肉では、EUの基準を満たした証明書を添付するトレーサビリティ(生産流通履歴)制度も設ける。EUには米国などと比べてハードルが高い独自の検疫基準があり、現在は畜産物のほか、それを原材料に使った加工品も日本は輸出できない。畜産物の輸入に当たりEUは日本に対し、豚肉の履歴管理や、アニマルウェルフェアの観点から家畜にストレスを与えないよう配慮した飼育などを求めている。各国が検疫制度を設ける畜産物を輸出する場合、伝染病を防ぐため輸出先の検査基準を満たすための体制について協議する必要がある。 牛肉は平成 26 年に輸出量が約 45 トン、輸出額は約 3 億 8000 万円だったが、29 年は約 130 トン、約 13 億円に。	●ハンガリー アフリカ豚コレラ初発(国際獣疫事務局(OIE)発表) 北部ヘヴェシュ県 野生のいのししで確認。 家畜の移動制限など防疫措置。 感染源については現在調査中。 ASF 発生国のウクライナとルーマニアの国境からは約 200km の距離に位置することから、OIE は、外国人労働者が持ち込んだ食品残さの可能性を示唆。 2017 年以降、近隣のチェコとルーマニアに続いたの発生。 ASF は、ロシアでの流行以降、徐々に欧州に感染が拡大中。 ※ポーランド政府は、EU 農相理事会の場で、EU がウクライナやベラルーシなどに対し、発生状況の把握や防疫対策に関して支援すべきと主張。 EU 最大の農業生産者団体である欧州農業組織委員会(COPA)・欧州農業協同組合委員会(COGECA)も、ポーランドの近隣諸国との協調した取り組みを求める要請を支持。 欧州での発生状況を踏まえ、デンマーク政府は、ドイツとの国境に、野生のいのししの侵入を防ぐためのフェンス建設計画を発表。 ドイツの一部の州では、養豚農家から費用を徴収して地元の狩猟者による野生のいのししの駆除に乗出す。 英国農業園芸開発公社は、国内の養豚農家に対し、食品の食べ残しを豚に与えないように周知活動を強化。 欧州委員会は 2018.2.1、ASF 対策を含めた動植物の疾病対策として、1 億 5400 万ユーロ(207 億

		<p>9000 万円)の予算措置を決定。 ハンガリーは 2017 年に 43 万 4580 トン(枝肉重量ベース。EU28 カ国のシェア 1.9%)の豚肉を生産し、うち 5 万 2851 トン(製品重量ベース)を EU 域外に輸出。 最大の輸出先は日本(2 万 239 トン(EU から日本への総輸入量の 6.0%))。 日本政府は 4 月 24 日より、同国からの豚、豚肉等の一時輸入停止。</p>
2018.4.20		<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 雲林県 肉用ガチョウ農場1件</p>
2018.4.19		<p>●欧州連合(EU) ブラジルの特定食肉処理施設 20 カ所からの鶏肉の輸入を禁止 欧州委員会(EC)保健衛生・食の安全総局は「ブラジルの公式な管理システムにおいて検出された欠陥」としている。禁輸措置は、決定の公式発表後 15 日以内に発効される。 ブラジルは、この EU によるブラジル産鶏肉の輸入制限を世界貿易機関(WTO)に提訴する予定。</p>
2018.4.17		<p>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 屏東県 肉用あひる農場1件</p>
2018.4.15	<p>●日本 鳥インフルエンザ清浄国復帰 家きん及び家きん由来製品の輸出検疫証明書の交付を再開(一部輸入を停止している国・地域あり)</p>	
2018.4.13		<p>●米国 サルモネラ食中毒で鶏卵2億個リコール 米国食品医薬品局(FDA)発表 鶏卵生産大手のローズ・エーカー・ファームズ(本社—インディアナ州セイモア、2017 年全米飼養羽数ランキング 2 位、2690 万羽)のハイド郡農場(ノースカロライナ州)で生産した鶏卵が原因と推定されるサルモネラ食中毒が発生したため、同社が生産した卵を自主的にリコールしている。 リコールの対象は、2018 年 1 月 11 日から 4 月 12 日までに生産した鶏卵 2 億 674 万 9248 個。ただし、多くはすでに消費または廃棄されたと推察。発症例は 4 月 16 日までに、東海岸を中心とした 9 つの州で 5 歳から 90 歳まで 23 人分が当局に報告され、うち 6 人が入院したが、死者は出ていない。患者からは <i>Salmonella Braenderup</i> が検出され、同農場で採取したサンプルからも同一の菌株が検出された。ハイド郡農場では約 300 万羽を飼養し、1 日当たり鶏卵生産量は約 230 万個。米国農務省(USDA)検査員も常駐している。</p> <p>●フィンランド 野生ヘラジカ 鹿慢性消耗病(CWD)発生確認 同国から日本向けに輸出されるシカ科動物及びそれらの動物由来の畜産物について輸入停止</p>
2018.4.12		<p>●中国 口蹄疫(O 型)発生 新疆ウイグル自治区 1 件(牛・農場)</p>
2018.4.11		<p>●中国 口蹄疫(O 型)発生 広西チワン族自治区 1 件(豚・と殺場)</p> <p>●韓国 口蹄疫疑い事例 陰性 京畿道 1 件(豚)(1 例目の農場から 6.8 km 離れた場所) 検査結果:陰性</p>



2018.4.10		●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型) 発生 雲林県 肉用あひる農場1件
2018.4.4		●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型) 発生 香港 粉嶺区 発生数:1 件(野鳥:ハッカチョウ)
2018.4.2		●3.26-4.2 台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 雲林県、4 件(肉用アヒル、採卵鶏、肉用ガチョウ)
2018.4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 高病原性鳥インフルエンザ(陰性)</li> <li>●伊丹市 ハシブトガラス(1 羽)</li> <li>●簡易検査:陽性</li> <li>●確定診断→ 陰性(4/9)</li> <li>●高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型) 発生 家さん: 香川県1例</li> <li>野鳥: 島根県(7例), 東京都(1例), 兵庫県(38 例)計 46 例発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 口蹄疫 (A 型)発生(4/3 確定)京畿道金浦市霞城面 豚農場(3,376 頭飼養) 初発農場から 12.7km 離れた疫学関連農場 3/28 感染抗体(NSP)検出</li> <li>4/2 口蹄疫ウイルス抗原検出(京畿道の動物衛生試験所で精密検査)</li> <li>4/3 A 型と確定(農林畜産検査本部) 防疫措置</li> <li>●殺処分ー 発生農場および同一農場主所有第2農場(金浦市月串面)の予防的殺処分実施。</li> <li>☆疫学ー 1例目の農場進入糞尿回収車が2例目の農場に出入り判明(当局説明)</li> </ul>
2018.3.30		●米通商代表部(USTR) 牛肉月齢制限撤廃要求 2018 年版外国貿易障壁報告書公表。日本に対し、牛肉では、米国の牛海綿状脳症(BSE)のリスクが低減しているとし、輸入を 30 カ月齢未満に限る BSE 関係規制の撤廃を要求。
2018.3.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農林水産省専門家会議 香川県 HPAI ウイルス 検出されにくい特性か?(未確認情報)</li> <li>背景</li> <li>香川県さぬき市 養鶏場 1月</li> <li>HPAIV 感染を確認する検査 1 回で判断できず2回目検査、異例の事態。</li> <li>報告</li> <li>3/28 農林水産省専門家会議</li> <li>今回の HPAIV 分析結果</li> <li>感染鳥から排出されるウイルスの量が従来よりも 1/10~1/100 程度と少なく、検出しにくい特性</li> <li>対応</li> <li>①検査を行うニワトリの数をこれまでの2倍程度の13羽に増やす</li> <li>②自治体だけでなく同じサンプルを国の研究機関でも並行して分析する</li> <li>など、検査態勢を強化する</li> </ul>	
2018.3.27		<ul style="list-style-type: none"> <li>●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 屏東県、発生数:1 件(肉用あひる農場)</li> <li>●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H7N9 亜型) 発生 山西省 1 件(農場:採卵鶏) (飼養規模: 6,374 羽)</li> </ul>
2018.3.26		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 口蹄疫(A 型)発生(A/Asia/Sea-97 (2017.2 韓国京畿道漣川郡発生と同じ)) 京畿道金浦市大串面 発生数:1 件(豚、1,059 頭飼養)</li> <li>韓国農林畜産食品部</li> <li>発生は 2017 年 2 月 13 日以来、1 年 1 ヶ月ぶり。</li> <li>3/26 母豚や離乳豚で水疱や蹄の脱落があったため通報。</li> <li>3/27 A 型と確定。同農場と周辺 3km 以内の農場</li> </ul>

		<p>の豚を殺処分する他、発生農場から 10km 以内を移動制限区域として監視強化対応。      ※3km 以内には他に牛農場 50、鹿農場 9(計 66 農場)      ・緊急ワクチン接種(O 型+A 型ワクチン)      - 京畿道、忠清南道の豚農場に対するワクチン接種3月 29 日完了。      - 4 月末までに全国の豚農場に対して接種し、1 回目のワクチン接種が完了した豚について、2 回目のワクチンを接種予定。      (参考1)韓国における通常の FMD ワクチン接種      牛:O 型+A 型(O1 Manisa+O 3039+A22 Iraq)      ※A 型は備蓄のみ      豚:O 型(O1 Manisa+O 3039, O Campos, O Primorsky)      京畿道、忠清南道の豚飼養戸数      京畿道:1,280 農場、203.1 万頭      忠清南道:1,235 農場、227.6 万頭</p> <table border="1" data-bbox="935 725 1474 848"> <thead> <tr> <th colspan="4">2017 遼川株のワクチンマッチング(r1 値)(英 パープライト研究所 2017 年)</th> </tr> <tr> <th>対象</th> <th>A22 IRQ 24/64</th> <th>A IRN 2005</th> <th>A MAY/97</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:遼川株</td> <td>0.69</td> <td>0.46</td> <td>0.14</td> </tr> <tr> <td colspan="4">r1 &gt;0.3 でマッチと判定(防衛確立高い)</td> </tr> </tbody> </table>	2017 遼川株のワクチンマッチング(r1 値)(英 パープライト研究所 2017 年)				対象	A22 IRQ 24/64	A IRN 2005	A MAY/97	A:遼川株	0.69	0.46	0.14	r1 >0.3 でマッチと判定(防衛確立高い)			
2017 遼川株のワクチンマッチング(r1 値)(英 パープライト研究所 2017 年)																		
対象	A22 IRQ 24/64	A IRN 2005	A MAY/97															
A:遼川株	0.69	0.46	0.14															
r1 >0.3 でマッチと判定(防衛確立高い)																		
2018.3.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 高病原性鳥インフルエンザ</li> <li>●伊丹市 ハシブトガラス(1 羽)</li> <li>●簡易検査:陽性</li> <li>●確定診断→ 高病原性(H5N6 亜型)(4/4 確定)</li> </ul>																	
2018.3.22		<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 口蹄疫(O 型)発生 甘肅省臨夏県、1 件(牛・家畜市場)</li> <li>●アルゼンチン・パタゴニア 生鮮牛肉・羊肉輸入解禁[地域主義] 食料・農業・農村政策審議会 第 26 回家畜衛生部会(2018.3.17) アルゼンチンはワクチン接種清浄地域(北部)、ワクチン非接種清浄地域(南部)。 パタゴニア(ワクチン非接種清浄地域)</li> <li>●ウルグアイ 生鮮牛肉輸入解禁[上乘セリスク管理措置] 食料・農業・農村政策審議会 第 26 回家畜衛生部会(2018.3.17) ウルグアイはワクチン接種清浄国。初事例。 [上乘セリスク管理措置]: ①頭部、四肢、蹄、こぶ、内臓を含まないこと、②と畜工程において主要リンパ節、確認できるリンパ節・血餅を除去すること、③と畜後脱骨前に、2℃超で少なくとも 2 時間の熟成工程を経て、かつウルグアイの公的獣医師が、両側の半と体について腰最長筋中央の pH を測定し、両側共に pH が 6.0 未満に下がっていることを確認した枝肉由来であること、④脱骨すること、⑤上記全てを満たす牛肉以外の肉と接触していなかったこと、の条件</li> <li>●ドイツ 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生</li> </ul>																
2018.3.19		<ul style="list-style-type: none"> <li>●スウェーデン 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生</li> <li>●1.4-3.19 台湾 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2)発生 屏東市 6 件(地鶏農場、採卵鶏農場)</li> </ul>																

2018.3.18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 高病原性鳥インフルエンザ</li> <li>・伊丹市 ハシブトガラス(1羽)</li> <li>・簡易検査:陽性</li> <li>・確定診断→ 高病原性(H5N6 亜型)(3/30 確定)</li> </ul>	
2018.3.17		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 忠清南道牙山市 採卵鶏農場 1件</li> <li>※今シーズンの韓国において、家きんで 22 例目</li> </ul>
2018.3.16		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 京畿道楊州市 採卵鶏農場 1件(飼養規模:約 26,000 羽)</li> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 京畿道平沢市 採卵鶏農場 1件 48 万 6 千羽</li> <li>※16 日午後 4 時 平沢市梧城面の採卵鶏農家、簡易検査陽性(H5 型)</li> <li>15 日、当該農場から京畿道楊州隱県面と驪州陵西面の農場にそれぞれ 1 万 6 千羽、3 万 300 羽の採卵鶏出荷。</li> <li>当該農家 3 戸の鶏をすべて殺処分計画。さらに半径 500m 以内に養鶏農場 2 農場があり、検査中。</li> <li>京畿道では 1 月 26 日に華城で、1 月 27 日に平沢で鳥インフルエンザが発生してから 48 日ぶり。京畿地域の鳥インフルエンザ事態が終息した 3 月 8 日から 1 週間ぶりに移動制限と出入り統制措置が再発令。移動中止命令は 17 日午前 0 時から 24 時間。移動中止対象は国家動物防疫統合システムに登録された約 1 万カ所で、家禽農家 3,960 カ所、食鳥処理場 11 カ所、飼料工場 102 カ所、車両 6,725 台が該当。</li> </ul>
2018.3.11-14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 高病原性鳥インフルエンザ</li> <li>・伊丹市 ハシブトガラス(2羽)</li> <li>・簡易検査:陽性</li> <li>・確定診断→ 高病原性(H5N6 亜型)(3/23 確定)</li> </ul>	
2018.3.13		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 忠清北道 1 件(農場:肉用あひる,10,000 羽)</li> </ul>
2018.3.12		<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス 鳥インフルエンザ(H5N3 亜型)発生・フィニステール県</li> </ul>
2018.3.7-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 高病原性鳥インフルエンザ</li> <li>・伊丹市 ハシブトガラス(4羽)</li> <li>・簡易検査:陽性</li> <li>・確定診断→ 高病原性(H5N6 亜型)(3/15 確定)</li> </ul>	
2018.3.6		<ul style="list-style-type: none"> <li>●米国 鳥インフルエンザ(H7 亜型)発生・ミズーリ州</li> <li>●フランス 鳥インフルエンザ(H5 亜型)発生・サルト県</li> </ul>
2018.3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 高病原性鳥インフルエンザ</li> <li>・伊丹市 ハシブトガラス(6羽)</li> <li>・簡易検査:陽性(3/9)</li> <li>・確定診断→ 高病原性(H5N6 亜型)(3/13 確定)</li> </ul>	
2018.3.3-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 高病原性鳥インフルエンザ</li> <li>・伊丹市 ハシブトガラス(6羽)</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易検査:陽性(3/6)</li> <li>・確定診断→ 高病原性(H5N6 亜型)(3/9 確定)</li> </ul>	
2018.3.2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 カラス 高病原性鳥インフルエンザ</li> <li>伊丹市昆陽池 ハシボソガラスの死骸</li> <li>簡易検査 鳥インフルエンザウイルス陽性</li> <li>2日-15羽死亡発見 7/7 陽性</li> <li>確定診断→ 高病原性(H5N6 亜型)(3/8 確定)</li> </ul>	
2018.3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県 カラス 高病原性鳥インフルエンザ</li> <li>伊丹市昆陽池 ハシボソガラスの死骸</li> <li>簡易検査 鳥インフルエンザウイルス陽性</li> <li>1日-15羽が死亡発見 5/6 羽陽性</li> <li>確定診断→ 高病原性(H5N6 亜型)(3/6 確定)</li> </ul>	
2018.2.24		<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 口蹄疫(O型)発生 河南省安陽市 裏庭農場 1件(羊 1件)</li> <li>(参考)中国における発生状況: 2018年1月2日~2月24日まで 4件</li> <li>牛・羊・豚:1件</li> <li>牛・豚:1件</li> <li>牛・羊:1件</li> <li>羊:1件</li> <li>血清型:O型 3件, A型 1件)</li> </ul>
2018.2.22		<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 ノール県</li> <li>●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 広西チワン族自治区 あひる農場 1件 30,462羽</li> </ul>
2018.2.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>●熊本県 高病原性鳥インフルエンザ疑い→陰性</li> <li>天草市下浦町の畑</li> <li>・野鳥の種類:ハシブトガラス(1羽)</li> <li>・遺伝子検査:陽性</li> <li>・確定検査:陰性(3/13)</li> </ul>	
2018.2.18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道様以(さまに)町 高病原性鳥インフルエンザ疑い→陰性</li> <li>・野鳥の種類:マガン(1羽)</li> <li>・遺伝子検査:陽性</li> <li>・確定検査:陰性(3/13)</li> </ul>	
2018.2.17		<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H7N9 亜型)発生 陝西省 裏庭農場(採卵鶏)1件 1,000羽</li> </ul>
2018.2.10		<ul style="list-style-type: none"> <li>●ロシア 口蹄疫(O型)発生 ザバイカリエ地方 発生数:1件(牛、羊・山羊、豚)</li> </ul>
2018.2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宮崎県 豚流行性下痢発生(PED)都城市梅北町 養豚農場(一貫経営)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス 低病原性鳥インフルエンザ(H5N3 亜型)発生 ヴァンデ県</li> </ul>
2018.2.8		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 忠清南道天安市 採卵鶏農場 1件 21,000羽</li> <li>●2.1-2.8 ロシア 口蹄疫(O型)発生 ザバイカリエ地方 農場 3件(牛 2件, 牛・羊・山羊 1件)</li> </ul>
2018.2.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宮崎県 豚流行性下痢発生(PED) 都城市梅北町 養豚農場(一貫経営)</li> </ul>	
2018.2.6		<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス 低病原性鳥インフルエンザ発生</li> <li>・(H5 亜型)2件 ロワール・アトランティック県</li> <li>・(H5N2 亜型)1件 モルビアン県</li> </ul>

2018.2.4		●フランス 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生 モルビアン県
2018.2.1	●滋賀県 野鳥 高病原性鳥インフルエンザ疑い 場所: 彦根市 検体: カルガモ死骸 ・簡易検査: 陰性 ・遺伝子検査: 陽性 ・確定検査: 陰性(鳥インフルエンザウイルス:H1N1 亜型)(2/15)	
2018.1.31	●食肉輸入貿易統計 1991年以降で最多牛と豚、鶏の全畜種で急増、26年間で倍増。 豚肉 約93万トン(国産と競合する冷蔵品が急増) 鶏肉 約57万トン(ブラジル産やタイ産がスーパー、居酒屋など強い模様) 牛肉 約57万トン(豪州産が2015年経済連携協定締結後増加) 	●台湾 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型)発生 屏東県 1件(農場:肉用あひる) 2017年10月～2018年1月までに34件(血清型:H5N2 33件, H5N8 1件)
2018.1.27		●韓国 高病原性鳥インフルエンザ発生(H5N6 亜型)16例目 京畿道平沢市 採卵鶏農場1件 143,000羽
2018.1.18	●京都 野鳥 鳥インフル (遺伝子検査 陽性) (簡易検査 陰性) 場所: 京都市西京区住宅地 検体: 回収(1/18)した野生のカルガモ 3羽 検査: 遺伝子検査 1/3羽で鳥インフルエンザ陽性反応 確定検査(1/30)→陰性(H2N2)	●韓国 高病原性鳥インフルエンザ発生(H5N6 亜型)15例目 京畿道華城市 採卵鶏農場1件 147,700羽
2018.1.16	●島根県 野鳥 鳥インフル(簡易検査 陽性)→(確定検査 陰性) 場所: 浜田市 検体: 回収した野生のカムリカイツブリ 1羽の死骸	
2018.1.15		●1.1-1.15 モンゴル 口蹄疫(血清型:O型) ドルノゴビ県の農場 1件(牛・山羊・羊 1件) ドンドゴビ県の農場 6件(牛・山羊・羊 5件, 牛 1件)
2018.1.10	●香川県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)(確定検査 1/11) 場所: さぬき市 飼養状況: 肉用鶏 当該農場(約5万1000羽)、同市内関連農場(距離1.5km、約4万羽)の計91,876羽 防疫措置 1/22 殺処分約9万1000羽の焼却終了、焼却されたペール缶は計4,609缶、投入重量は計110.8トン 1/30 3～10キロ圏の搬出制限区域解除 2/5 3キロ圏の移動制限区域解除 ◎2/14 農水省調査結果	●中国 口蹄疫発生状況: 2017年1月5日～2018年1月10日 計16件 動物種: 牛8件, 豚2件, 牛・山羊・豚1件, 牛・豚2件, 牛・羊2件, 牛・羊・豚: 1件, 血清型: O型13件, A型3件 ●中国 口蹄疫(O型)発生 寧夏回族自治区 裏庭農場 1件(牛・羊 1件) ●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型)発生 全羅南道康津郡 種あひる農場1件 5,900羽



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生鶏舎は野鳥が飛来するため池に最も近いため「ウイルスが周辺に存在し、人や野生動物など何らかの形で侵入した可能性がある」</li> <li>・養鶏場の衛生管理に問題は見つからない</li> <li>・鶏舎への侵入の証拠が少なく、具体的な経路の特定は難しい</li> <li>・農水省の現地調査(1月12日) <ul style="list-style-type: none"> <li>→ため池には水鳥が複数羽確認された。</li> <li>→鶏舎内にネズミのものと思われる糞あり。</li> <li>→養鶏場は鶏舎の破損部分を補修して野生動物の侵入を防いでいた。</li> <li>→従業員が専用の長靴を着用するなどの対策を取っていた。</li> <li>→ため池の水、鶏舎近くの野鳥の糞などを調べたウイルス検査結果は全て陰性。</li> </ul> </li> <li>松江市、東京都の野鳥由来高病原性鳥インフルエンザウイルスと香川のウイルスは別の種類</li> <li>香川では感染した鶏の排泄物のウイルス量が少ない</li> </ul>	
2018.1.9		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型) 発生 全羅南道長興郡 肉用あひる農場1件 14,500羽</li> </ul>
2018.1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東京 オオタカ 鳥インフル陽性(遺伝子検査:環境省) 場所:大田区 公園</li> <li>・鳥種:オオタカ(死骸)1羽</li> <li>確定検査:高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6 亜型)が検出(1/17)</li> </ul>	
2018.1.4		<ul style="list-style-type: none"> <li>●フランス 低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)発生確認 ランド県 あひる農場</li> <li>対策(日本) 同国ランド県からの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止</li> </ul>
2018.1.3		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型) 発生 京畿道抱川市 発生数:1件採卵鶏 197,000羽</li> <li>●中国 口蹄疫(O型)発生 貴州省三都スイ族自治県の1件(牛・豚1件)</li> <li>●中国 口蹄疫発生状況:2017年1月5日～2018年1月3日 計15件</li> <li>・動物種:牛8件,豚2件,牛・山羊・豚1件,牛・豚2件,牛・羊1件,牛・羊・豚:1件</li> <li>・血清型:O型12件,A型3件</li> </ul>
2018.1.2		<ul style="list-style-type: none"> <li>●中国 口蹄疫(A型)発生 貴州省長順県の1件(牛・羊・豚1件)</li> </ul>
2018.1.1		<ul style="list-style-type: none"> <li>●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N6 亜型) 発生 全羅南道高興郡 1件肉用あひる 8,300羽</li> </ul>